

妙法蓮華經略要品

かい きょう げ  
開 經 偈

むじょうじんじん みみょう ほう ひやくせんまんごう あい  
無上甚深微妙の法は。百千萬劫にも遭遇たてまつ

かた われいまけんもん じゅじ え  
ること難し。我今見聞し受持することを得たり。

ねが によらい だいいちぎ げ しごく だいいょうし  
願わくは如來の第一義を解せん。至極の大乗。思

ぎ けんもんそくち みなぼだい ちか のうせん  
議すべからず。見聞觸知。皆菩提に近づく。能詮は

ほうしん しょせん ほつしん しきそう もんじ すなわ こ おうじん  
報身。所詮は法身。色相の文字は。即ち是れ應身な

むりょう くどく みなこ きょう あつま こ ゆえ じざい  
り。無量の功德。皆是の經に集れり。是の故に自在

に。冥みように薰くんじ密みつに益やくす。有う智ち無む智ち。罪つみを滅めつし善ぜんを生しょう  
ず。若もしは信しん若もしは謗ほう。共ともに佛道ぶつどうを成じようず。三世さんぜの諸佛しよぶつ。  
甚深じんじんの妙典みようでんなり。生生しょうじよう世世せせ。值遇ちぐし頂戴ちようだいせん。

みようほうれんげーきよう じよほん だいいち

○妙法蓮華經。序品。第一

によぜー がーもん いちじー ぶつじゅう おうしゃじよう ぎーしゃくつせんちゅう よーだいいびー

如是。我聞。一時。佛住。王舍城。耆闍崛山中。與大比

丘衆。萬二千人俱。皆是阿羅漢。諸漏已盡。無復煩惱。

たいとつこーりー じんしやうーけつ しんとくじーざい ごーみようわつ あーにゃきようじんによ

逮得己利。盡諸有結。心得自在。其名曰。阿若憍陳如。

まーかーかーしやう うる びんらーかーしやう がーやーかーしやう なーだいかーしやう しやり

摩訶迦葉。優樓頻螺迦葉。伽耶迦葉。那提迦葉。舍利

ほつ だいまつけんれん まーかーかーせんねん あーぬる だー こうひんなー きやうぼん

弗。大目犍連。摩訶迦旃延。阿菟樓駄。劫賓那。憍梵

はーだい りーはーたー ひつりやうかーばーしや はーくーらー まーかーくーちーらー なん

波提。離婆多。畢陵伽婆蹉。薄拘羅。摩訶拘絺羅。難

陀。孫陀羅難陀。富樓那彌多羅尼子。須菩提。阿難。  
 羅睺羅。如是衆所知識。大阿羅漢等。復有學無學二  
 千人。摩訶波闍波提比丘尼。與眷屬六千人俱。羅睺  
 羅母耶輸陀羅比丘尼。亦與眷屬俱。菩薩摩訶薩八萬  
 人。皆於阿耨多羅三藐三菩提。不退轉。皆得陀羅尼。  
 樂說辯才。轉不退轉法輪。供養無量。百千諸佛。於諸  
 佛所。植衆德本。常爲諸佛。之所稱歎。以慈修身。善

にゆうぶツて一 つうだつ だいち一 とうお一ひーがん みようしょうふーもん むーりようせーかい  
 入佛慧。通達大智。到於彼岸。名稱普聞。無量世界。  
 のうどーむーしゅ ひやくせんしゅじよう ぎーみようわつ もんじゅ しり ぼーさつ かんぜーおん  
 能度無數。百千衆生。其名曰。文殊師利菩薩。觀世音  
 ぼーさつ とくだいせいぼーさつ じようしょうじんぼーさつ ふく そくぼーさつ ほうしょうぼー  
 菩薩。得大勢菩薩。常精進菩薩。不休息菩薩。寶掌菩  
 さつ やくおうぼーさつ ゆうぜーぼーさつ ほうがちぼーさつ がツこうぼーさつ まんがち  
 薩。藥王菩薩。勇施菩薩。寶月菩薩。月光菩薩。滿月  
 ぼーさつ だいききぼーさつ むーりようりききぼーさつ おつさんがいぼーさつ ばつだーば  
 菩薩。大力菩薩。無量力菩薩。越三界菩薩。颯陀婆  
 ら ぼーさつ みーろくぼーさつ ほうしやくぼーさつ どうしーぼーさつ によぜーとうぼーさつ  
 羅菩薩。彌勒菩薩。寶積菩薩。導師菩薩。如是等菩薩  
 まーかーさつ はちまんにんくー にーじーしやくだいかんにん よーごーけんぞく にーまんてん  
 摩訶薩。八萬人俱。爾時釋提桓因。與其眷屬。二萬天

じくー ぶーうーみようがツてんじー ふーこうてんじー ほうこうてんじー しーだいてんのう  
 子俱。復有名月天子。普香天子。寶光天子。四大天王。  
 よーごーけんぞく まんてんじーくー じーぎいてんじー だいじーぎいてんじー よーごーけん  
 與其眷屬。萬天子俱。自在天子。大自在天子。與其眷  
 ぞく さんまんでんじーくー しゃばーせーかいしゅ ぼんでんのう しーきーだいぼん こう  
 屬。三萬天子俱。娑婆世界主。梵天王。尸棄大梵。光  
 みようだいぼんとう よーごーけんぞく まんにーせんてんじーくー うーはちりゅうおう なんだー  
 明大梵等。與其眷屬。萬二千天子俱。有八龍王。難陀  
 りゅうおう ばつなんだーりゅうおう しゃからーりゅうおう わしゅきつりゅうおう とくしゃか  
 龍王。跋難陀龍王。娑伽羅龍王。和脩吉龍王。德叉迦  
 りゅうおう あな ばーだツたーりゅうおう まな しーりゅうおう うーはつらーりゅうおうとう  
 龍王。阿那婆達多龍王。摩那斯龍王。優鉢羅龍王等。  
 かくよーにヤツかん ひやくせんけんぞつくー うーしーきん なら おう ほうきん なら おう  
 各與若干。百千眷屬俱。有四緊那羅王。法緊那羅王。

みようほうきん なら おう だいほうきん なら おう じーほうきん なら おう かくよー  
 妙法緊那羅王。大法緊那羅王。持法緊那羅王。各與  
 にヤツかん ひやくせんけんぞつくーうーしーけんたつばーおう かくけんたつばーおう かくおん  
 若干。百千眷屬俱。有四乾闥婆王。樂乾闥婆王。樂音  
 けんたつばーおう みーけんたつばーおう みーおんけんたつばーおう かくよーにヤツかん ひやく  
 乾闥婆王。美乾闥婆王。美音乾闥婆王。各與若干。百  
 せんけんぞつくー うーしーあしゅらーおう ばーぢーあしゅらーおう から けんだー  
 千眷屬俱。有四阿脩羅王。婆稚阿脩羅王。佉羅騫馱  
 あしゅらーおう びーまーしツ たら あしゅらーおう らーごー あしゅらーおう かく  
 阿脩羅王。毗摩質多羅阿脩羅王。羅睺阿脩羅王。各  
 よーにヤツかん ひやくせんけんぞつくーうーしー かる らーおう だいいーとく かる らー  
 與若干。百千眷屬俱。有四迦樓羅王。大威徳迦樓羅  
 おう だいしん かる らーおう だいまん かる らーおう によいー かる らーおう かく  
 王。大身迦樓羅王。大満迦樓羅王。如意迦樓羅王。各



よーにやツかん ひやくせんけんぞつくー いーだいけーしー あーじゃせーおう よーにやツかん  
與若干。百千眷屬俱。韋提希子。阿闍世王。與若干。  
ひやくせんけんぞつくー かくらいぶツそく たいぎーいちめん  
百千眷屬俱。各禮佛足。退坐一面。

みようほうれんげーきようほうべんぼん だいにー

○妙法蓮華經。方便品。第二

にーじーせーそんじゆうさんまいあんじょうにーきーごうしゃりほつ しょぶつちーえーじん  
爾時世尊。從三昧安詳而起。告舍利弗。諸佛智慧。甚  
じんむりようごーちーえーもん なんげーなんにゆういつさいししようもんびやくしーぶつしよ  
深無量。其智慧門。難解難入。一切聲聞。辟支佛。所  
ふーのうちーしよいーしゃがーぶつぞうしんごん ひやくせんまんのく むーしゆしよぶつ  
不能知。所以者何。佛會親近。百千萬億。無數諸佛。  
じんぎようしよぶつ むりようどうほうゆうみようしやうじん みようしやうふーもんじやうじゆじん  
盡行諸佛。無量道法。勇猛精進。名稱普聞。成就甚  
じん みーぞううーほう ずいぎーしよせつ いーしゆなんげーしやりほつ ごーじゆうじよう  
深。未曾有法。隨宜所說。意趣難解。舍利弗。吾從成  
ぶつちーらい しゅじゆいんねん しゅじゆひーゆー こうえんごんきよう むーしゆほうべん  
佛已來。種種因緣。種種譬諭。廣演言教。無數方便。

いんどうしゅじょうりょうりしよぢやくしよいしやがー によらいほうべん ちーけん たら  
 引導衆生。令離諸著。所以者何。如來方便。知見波羅  
 みつ かいーぐーそく しやりほつ によらいちーけん こうだいじんのもん むーりょうむー  
 蜜。皆已具足。舍利弗。如來知見。廣大深遠。無量無  
 げーりき むーしよいー ぜんじょう げーだつ さんまい じんによむーさい じょうじゆいッ  
 礙。力。無所畏。禪定。解脫。三昧。深入無際。成就一  
 さい みーぞううーほう しやりほつ によらいのうしゅじゆふんべつ ぎょうせつしよほう  
 切。未曾有法。舍利弗。如來能種種分別。巧說諸法。  
 こんじーによなん えッかーしゅしん しやりほつ しゅようこんしー むーりょうむーへん  
 言辭柔軟。悅可衆心。舍利弗。取要言之。無量無邊。  
 みーぞううーほう ぶつしつじょうじゆ しー しやりほつ ふーしゅぶーせつ しよいーしや  
 未曾有法。佛悉成就。止。舍利弗。不須復說。所以者  
 がー ぶつしよじょうじゆ だいいちけーうー なんげー しーほう ゆいぶつよーぶつ ないのう  
 何。佛所成就。第一希有。難解之法。唯佛與佛。乃能

くーじん しょほうじつそう  
究盡。諸法實相。『所謂諸法。如是相。如是性。如是  
たい によぜーりき によぜーさー によぜーいん によぜーえん によぜーかー によぜーほう  
體。如是力。如是作。如是因。如是緣。如是果。如是報。  
によぜーほんまつくーきようとう  
如是本末究竟等。』  
（『所謂諸法……』以下三回くりかえす）

みようほうれんげーきよう によらいじゆりようほん だいじゆうろく

○妙法蓮華經。如來壽量品。第十六

にーじーぶつごうしよぼーさつ ぎゆういっさいだいしゆ しょぜんなんしー によとうとうしん  
爾時佛告諸菩薩。及一切大衆。諸善男子。汝等當信  
げー によらいじようたいしーごー ぶーごうだいしゆ によとうとうしんげー によらいじようたい  
解。如來誠諦之語。復告大衆。汝等當信解。如來誠諦  
しーごー うーぶーごうしよだいしゆ によとうとうしんげー によらいじようたいしーごー ぜー  
之語。又復告諸大衆。汝等當信解。如來誠諦之語。是  
じーぼーさつだいしゆ みーろくいーしゆ がっしょうびやくぶつごん せーそん ゆいがんせつしー  
時菩薩大衆。彌勒爲首。合掌白佛言。世尊。唯願說之。  
がーとうとうしんじゆぶつごー によぜーさんびやくいーぶーごん ゆいがんせつしー がーとう  
我等當信受佛語。如是三白已。復言。唯願說之。我等  
とうしんじゆぶつごー にーじーせーそん ちーしよぼーさつ さんしゆうふーしー にーごうしー  
當信受佛語。爾時世尊。知諸菩薩。三請不止。而告之

言。汝等諦聽。如來秘密。神通之力。一切世間天人。  
 及阿脩羅。皆謂今釋迦牟尼佛。出釋氏宮。去伽耶城  
 不遠。坐於道場。得阿耨多羅三藐三菩提。然善男子。  
 我實成佛已來。無量無邊。百千萬億。那由佗劫。譬如  
 五百千萬億。那由佗。阿僧祇。三千大千世界。假使有  
 人。抹爲微塵。過於東方。五百千萬億。那由佗。阿僧  
 祇國。乃下一塵。如是東行。盡是微塵。諸善男子。於意

うんがー ぜーしよせーかい かーとくしーゆいきょうけい ちーごーしゅふー みーろくぼーさつ  
 云何。是諸世界。可得思惟校計。知其數不。彌勒菩薩  
 とう くーびやくぶつごん せーそん ぜーしよせーかい むーりようむーへん ひーさんじゅしよ  
 等。俱白佛言。世尊。是諸世界。無量無邊。非算數所  
 ちー やくひーしんりきしよぎゆう いっさいしやうもんびやくしーぶつ いーむーろーちー ふー  
 知。亦非心力所及。一切聲聞。辟支佛。以無漏智。不  
 のうしーゆい ちーごーげんしゅ がーとうじゅ あーゆいおツちーじー おーぜーじーちゅう  
 能思惟。知其限數。我等住。阿惟越致地。於是事中。  
 やくしよふーだつ せーそん によぜーしよせーかい むーりようむーへん にーじーぶつごう  
 亦所不達。世尊。如是諸世界。無量無邊。爾時佛告。  
 だいぼーさつしゅ しよぜんなんしー こんとうふんみようせんごーによとう ぜーしよせー  
 大菩薩衆。諸善男子。今當分明。宣語汝等。是諸世  
 かい にかくちやくみーじん ぎゆうふーちやくしや じん にーいーじん いちじんいっこう がーじよう  
 界。若著微塵。及不著者。盡以爲塵。一塵一劫。我成

ぶつちーらい ぶーかーおーしー ひやくせんまんのく なーゆーたー あーそうぎーこう じー  
 佛已來。復過於此。百千萬億。那由佗。阿僧祇劫。自  
 じゅうぜーらい がーじょうざいしーしゃばーせーかい セツぼうきょうけー やくおーよーしよ  
 從是來。我常在此娑婆世界。說法教化。亦於餘處。  
 ひやくせんまんのく なーゆーたー あーそうぎーこく どうりーしゅじょう しょぜんなんしー  
 百千萬億。那由佗。阿僧祇國。導利衆生。諸善男子。  
 おーぜーちゅうげん がーせつねんとうぶつとう うーぶーごんごー にゅうおーねーはん によぜー  
 於是中間。我說然燈佛等。又復言其。入於涅槃。如是  
 かいーほうべんふんべつ しょぜんなんしー にかくうーしゅじょう らいしーがーしよ がー  
 皆以。方便分別。諸善男子。若有衆生。來至我所。我  
 いーぶつげん かんごーしんとう しょこんりーどん ずいしよおうどー しょしよじーせつ  
 以佛眼。觀其信等。諸根利鈍。隨所應度。處處自說。  
 みょうじーふうどう ねんきーだいしやう やくぶーげんごん とうにゅうねーはん うーいーしゅじゅ  
 名字不同。年紀大小。亦復現言。當入涅槃。又以種種



ほうべん せつみりみようほう のうりようしゅじょう ほつかんぎしん しょぜんなんしー によ  
 方便。説微妙法。能令衆生。發歡喜心。諸善男子。如  
 らいけんしよしゅじょうぎようおーしよぼう とくはつくーじゅうしゃ いーぜーにんせつ がーしよ  
 來見諸衆生。樂於小法。德薄垢重者。爲是人説。我少  
 しゅつけーとくあーのくたーらーさんみやくさんぼーだい ねんがーじつじょうぶつちーらい くー  
 出家。得阿耨多羅三藐三菩提。然我實成佛已來。久  
 おんにやくしー たんにーほうべん きようけーしゅじょう りようにゆうぶつどう さーによぜーせつ  
 遠若斯。但以方便。教化衆生。令入佛道。作如是説。  
 しょぜんなんしー によらいしよえんきようでん かいいーどーだつしゅじょう わくせつこーしん  
 諸善男子。如來所演經典。皆爲度脫衆生。或説己身。  
 わくせつたーしん わくじーこーしん わくじーたーしん わくじーこーじー わくじーたー  
 或説佗身。或示己身。或示佗身。或示己事。或示佗  
 じー しょしよごんぜつ かいじつぷーこー しょいーしゃがー によらいによじつちーけん  
 事。諸所言説。皆實不虛。所以者何。如來如實知見。

さんがいしーそう　むーうーししょうじー　にやくたいにやくしゅつ　やくむーざいせー　ぎゅうめつどー  
 三界之相。無有生。死。若退若出。亦無在世。及滅度  
 しゃ　ひーじつひーこー　ひーによひーいー　ふーによさんがい　けんのーさんがい　によしー  
 者。非實非虛。非如非異。不如三界。見於三界。如斯  
 しーじー　によらいみょうけん　むーうーしやくみょう　いーしよしゅじょう　うーしゅじゅしやう　しゅ  
 之事。如來明見。無有錯謬。以諸衆生。有種種性。種  
 じゅよく　しゅじゅぎやう　しゅじゅおくそう　ふんべつこー　よくりやうしやうしよせんこん　いー  
 種欲。種種行。種種憶想。分別故。欲令生諸善根。以  
 にやつかんいんねん　ひーゆーごんじー　しゅじゅ　せつぼう　しよさーぶつじー　みーぞうざん  
 若干因緣。譬諭言辭。種種說法。所作佛事。未曾暫  
 ばい　によぜーがーじょうぶつちーらい　じんだいくーおん　じゅみやうむーりやう　あーそうぎーこう  
 廢。如是我成佛已來。甚大久遠。壽命無量。阿僧祇劫。  
 じょうじゅうふーめつ　しよぜんなんしー　がーほんぎやうぼーさつどう　しよじょうじゅみやう　こんゆー  
 常住不滅。諸善男子。我本行菩薩道。所成壽命。今猶

未盡。復倍上數。然今非實滅度。而使唱言。當取滅度。  
 如來以是方便。教化衆生。所以者何。若佛久住於世。  
 薄德之人。不種善根。貧窮下賤。貪著五欲。入於憶想。  
 妄見網中。若見如來。常在不滅。便起憍恣。而懷厭怠。  
 不能生於。難遭之想。恭敬之心。是故如來。以方便說。  
 比丘當知。諸佛出世。難可值遇。所以者何。諸薄德人。  
 過無量百千萬億劫。或有見佛。或不見者。以此事故。

がーさーぜーごん しょびーくー によらいなんかーとツけん しーしゅじょうとう もんによぜー  
 我作是言。諸比丘。如來難可得見。斯衆生等。聞如是  
 ごー ひツとうしょうおーなんぞうしーそう しんねーれんぼー かつごうおーぶつ べんしゅぜん  
 語。必當生於難遭之想。心懷戀慕。渴仰於佛。便種善  
 ごん ぜーこーによらい すいふーじつめつ にーごんめつどー うーぜんなんしー しょぶつ  
 根。是故如來。雖不實滅。而言滅度。又善男子。諸佛  
 によらい ほうかいによぜー いーどーしゅじょう かいじつぷーこー ひーにろうういー ちー  
 如來。法皆如是。爲度衆生。皆實不虛。譬如良醫。智  
 えーそうだつ みようれんほうやく ぜんじーしゅびょう ごーにんたーしよしーそく にかくじゅう  
 慧聰達。明練方藥。善治衆病。其人多諸子息。若十。  
 にーじゅう ないしーひやくしゅ いーうーじーえん おんしーよーこく しょしーおーごー おん  
 二十。乃至百數。以有事縁。遠至餘國。諸子於後。飲  
 たーどくやく やくほつもんらん えんでんうーぢー ぜーじーごーぶー げんらいきーけー  
 佗毒藥。藥發悶亂。宛轉于地。是時其父。還來歸家。

しよしーおんごく わくしツばんしん わくふーしツしゃ ようけんごーぶー かいだいかんぎー  
諸子飲毒。或失本心。或不失者。遙見其父。皆大歡喜。  
はいきーもんじん ぜんなんのんきー がーとうぐーちー ごーぶくどくやく がんけんくーりよう  
拜跪問訊。善安穩歸。我等愚癡。誤服毒藥。願見救療。  
きようしーじゆみよう ぶーけんしーとう くーのうによぜー えーしよきようぼう ぐーこうやくそう  
更賜壽命。父見子等。苦惱如是。依諸經方。求好藥艸。  
しきこうみーみー かいしつぐーそく とうしーわーごう よーしーりようぶく にーさーぜーごん  
色香美味。皆悉具足。擣篔和合。與子令服。而作是言。  
しーだいろうやく しきこうみーみー かいしつぐーそく にとうかーぶく そくじよくーのう  
此大良藥。色香美味。皆悉具足。汝等可服。速除苦惱。  
むーぶーしゅげん ごーしよしーちゆう ふーしツしんしゃ けんしーろうやく しきこうくーこう  
無復衆患。其諸子中。不失心者。見此良藥。色香俱好。  
そくべんぶくしー びようじんじよゆー よーしツしんしゃ けんごーぶーらい すいやくかんぎー  
即便服之。病盡除愈。餘失心者。見其父來。雖亦歡喜。

もんじん ぐーしゃくじーびようねんよーごーやく にーふーこうぶく しょいーしゃがー どつ  
 問訊。求索治病。然與其藥。而不肯服。所以者何。毒  
 けーじんにゆう しつぼんしんこー おーしーこうしきこうやく にーいーふーみー ぶーさーぜー  
 氣深入。失本心故。於此好色香藥。而謂不美。父作是  
 ねん しーしーかーみん いーどくしよちゅう しんかいてんどう すいけんがーきー ぐーしゃつ  
 念。此子可愍。爲毒所中。心皆顛倒。雖見我喜。求索  
 くーりよう によぜーこうやく にーふーこうぶく がーこんとうせつほうべんりようぶくしーやく  
 救療。如是好藥。而不肯服。我今當設方便。令服此藥。  
 そくさーぜーごん によとうとうちー がーこんすいろう しーじーいーしー ぜーこうろうやく  
 卽作是言。汝等當知。我今衰老。死時已至。是好良藥。  
 こんるーざいしー によかーしゅぶく もつつーふーさい さーぜーきよういー ぶーしーたーこく  
 今留在此。汝可取服。勿憂不差。作是教已。復至佗國。  
 けんしーげんごう によぶーいーしー ぜーじーしょしー もんぶーはいそう しんだいうーのう  
 遣使還告。汝父已死。是時諸子。聞父背喪。心大憂惱。

にーさーぜーねんにやくぶーざいしゃじーみんながーとうのうけんくーごーこんしゃしゃがー  
 而作是念。若父在者。慈愍我等。能見救護。今者捨我。  
 おんそうたーこくじーゆいこーろーむーぶーじーこーじょうえーひーかんしんずいしやうごー  
 遠喪佗國。自惟孤露。無復恃怙。常懷悲感。心遂醒悟。  
 ないちーしーやくしきこうみーみーそくしゅぶくしーどくびようかいゆーごーぶーもんしー  
 乃知此藥。色香味美。卽取服之。毒病皆愈。其父聞子。  
 しつちーとくさいじんべんらいきーげんしーけんしーしよぜんなんしーおーいーうんがー  
 悉已得差。尋便來歸。咸使見之。諸善男子。於意云何。  
 はーうーにんのうせつしーろういーこーもうざいふーほつちやせーそんぶつごんがー  
 頗有人能。說此良醫。虛妄罪不。不也。世尊。佛言。我  
 やくによぜーじょうぶつちーらいむーりようむーへんひやくんせんまんのくなーゆーたーあーそ  
 亦如是。成佛已來。無量無邊。百千萬億。那由佗阿僧  
 ぎーこういーしゅじょうこーいーほうべんりきごんどうめつどーやくむーうーのうによ  
 祇劫。爲衆生故。以方便力。言當減度。亦無有能。如

ほうせつがー こーもうかーしゃ にーじーせーそん よくじゅうせん しぎ にーせつげーごん  
 法説我。虚妄過者。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言

じーがーとくぶつらい  
 自我得佛來

しよきようしよこつしゆ  
 所經諸劫數

むーりようひやくせんまん  
 無量百千萬

おくさいあーそーぎー  
 億載阿僧祇

じようせつぼうきようけー  
 常説法教化

むーしゆおくしゆじよう  
 無數億衆生

りようにゆうおーぶつどう  
 令入於佛道

にーらいむーりようこう  
 爾來無量劫

いーどーしゆじようこー  
 爲度衆生故

ほうべんげんねーはん  
 方便現涅槃

にーじつふーめつどー  
 而實不滅度

じようじゅうしーせつぼう  
 常住此説法

がーじようじゅうおーしー  
 我常住於此

いーしよじんづうりき  
 以諸神通力

りようてんどうしゆじよう  
 令顛倒衆生

すいごんにーふーけん  
 雖近而不見

しゆけんがーめつどー  
 衆見我滅度

こうくーようしゃりー  
 廣供養舍利

げんかいえーれんぼー  
 咸皆懷戀慕

にーしよつかつごうしん  
 而生渴仰心

しゆじようきーしんぶく  
 衆生旣信伏

しちじきいーにゆうなん  
 質直意柔軟

いっしんよくけんぶつ  
 一心欲見佛

ふーじーしゃくしんみよう  
 不自惜身命



じーがーぎゅうしゅそつ

時我及衆僧

いーほうべんりきこー

以方便力故

がーぶーおーひーちゅう

我復於彼中

がーけんしよしゅじよう

我見諸衆生

いんごーしんれんぼー

因其心戀慕

じようざいりようじゅせん

常在靈鷲山

がーしーどーあんのおん

我此土安穩

くーしゅつりようじゅせん

俱出靈鷲山

げんうーめつふーめつ

現有滅不滅

いーせつむーじようほう

爲說無上法

もつざいおーくーかい

沒在於苦海

ないしゅついーせつぼう

乃出爲說法

ぎゅうよーしよじゅうしよ

及餘諸住處

てんにんじようじゅうまん

天人常充滿

がーじーごーしゅじよう

我時語衆生

よーこくうーしゅじよう

餘國有衆生

にととうふーもんしー

汝等不聞此

こーふーいーげんしん

故不爲現身

じんづうりきによぜー

神通力如是

しゅじようけんこうじん

衆生見劫盡

おんりんしよどうかく

園林諸堂閣

じようざいしーふーめつ

常在此不滅

くーぎようしんぎようしや

恭敬信樂者

たんにーがーめつどー

但謂我滅度

りようごーしよつかつごう

令其生渴仰

おーあーそうぎーこう

於阿僧祇劫

だいかーしよしよじようじー

大火所燒時

しゅじゅほうしようごん

種種寶莊嚴

ほうじゅたーけーかー

しゅじょうしよゆーらく

しよてんきやくてんくー

じようさーしゅぎーがく

寶樹多花果

衆生所遊樂

諸天擊天鼓

常作衆伎樂

うーまんだーらーけー

さんぶつぎゆうだいしゅ

がーじようどーふーきー

にーしゅけんしようじん

雨曼陀羅華

散佛及大衆

我淨土不毀

而衆見燒盡

うーふーしよくーのう

によぜーしつじゆうまん

ぜーしよざいしゅじよう

いーあくごういんねん

憂怖諸苦惱

如是悉充滿

是諸罪衆生

以惡業因緣

かーあーそうぎーこう

ふーもんさんぼうみよう

しようーしゅくーどく

にゅわーしちじきしや

過阿僧祇劫

不聞三寶名

諸有修功德

柔和質直者

そつかいけんがーしん

ざいしーにーせつぼう

わくじーいーしーしゅ

せつぶつじゅむーりよう

則皆見我身

在此而說法

或時爲此衆

說佛壽無量

くーないけんぶつしや

いーせつぶつなんちー

がーちーりきによぜー

えーこうしようむーりよう

久乃見佛者

爲說佛難值

我智力如是

慧光照無量

じゅみようむーしゅこう

くーしゅごうしよとく

によとううーちーしや

もつとーしーしようぎ

壽命無數劫

久修業所得

汝等有智者

勿於此生疑

とうだんりようようじん

當斷令永盡

ぶつごーじつぷーこー

佛語實不虛

によいーぜんほうべん

如醫善方便

いーじーおうしーこー

為治狂子故

じつざいにーごんしー

實在而言死

むーのうせつこーもう

無能說虛妄

がーやくいーせーぶー

我亦為世父

くーしよくーげんしや

救諸苦患者

いーぼんぶーてんどう

為凡夫顛倒

じつざいにーごんめつ

實在而言滅

いーじようけんがーこー

以常見我故

にーしようきようしーしん

而生憍恣心

ほういつぢやくごーよく

放逸著五欲

だーおーあくどうちゆう

墮於惡道中

がーじようちーしゆじよ

我常知衆生

ぎようどうふーぎようどう

行道不行道

ずいおうしよかーどー

隨應所可度

いーせつしゆじゆほう

為說種種法

まいじーさーぜーねん

每自作是念

いーがーりようしゆじよ

以何令衆生

とくにゆうむーじよどう

得入無上道

そくじようじゆぶつしん

速成就佛身

みようほうれんげーきよう によらいじんりきほん だいにーじゅういち

○妙法蓮華經。如來神力品。第二十一

にーじーせんぜーかい みーじんとう ぼーさつまーかーさつ じゅうちーゆうーじゅつしゃ かいおー  
爾時千世界。微塵等。菩薩摩訶薩。從地涌出者。皆於  
ぶつぜん いっしんがっしょう せんごうそんげん にーびやくぶつごん せーそん がーとうおー  
佛前。一心合掌。瞻仰尊顏。而白佛言。世尊。我等於  
ぶつめつごー せーそんふんじん しょざいこくどー めつどーしーしょ とうこうせつしー  
佛滅後。世尊分身。所在國土。滅度之處。當廣說此  
きようしよいーしゃがー がーとうやくじー よくとくぜーしんじょうだいほう じゅじー どのく  
經。所以者何。我等亦自。欲得是眞淨大法。受持。讀  
じゅ げーせつ しょしゃ にーくーようしー にーじーせーそん おーもんじゅしーりーとう  
誦。解説。書寫。而供養之。爾時世尊。於文殊師利等。  
むーりようひやくせんまんのく ぐーじゅうしゃばーせーかい ぼーさつまーかーさつ ぎつしよび  
無量百千萬億。舊住娑婆世界。菩薩摩訶薩。及諸比

く びく にー うーばーそく うーばーいー てんりゆう やーしゃ けんだつばー あ  
 丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿  
 しゅらー かる らー きん なら まご らーがー にんぴーにんとう いっさいしゅ  
 脩羅。迦樓羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。一切衆  
 ぜん げんだいじんりき すいこうちようぜつ じようしーぼんぜー いっさいもうくー ほうおー  
 前。現大神力。出廣長舌。上至梵世。一切毛孔。放於  
 むーりよう むーしゅしきこう かいしつへんじよう じつぼうせーかい しゅほうじゅげー しー  
 無量。無數色光。皆悉徧照。十方世界。衆寶樹下。師  
 しーざーじようしよぶつ やくぶーによぜー すいこうちようぜつ ほうむーりようこう しゃか む  
 子座上諸佛。亦復如是。出廣長舌。放無量光。釋迦牟  
 にぶつ ぎゆうほうじゅげーしよぶつ げんじんりきじーまんひやくせんさい ねんごーげんしよ  
 尼佛。及寶樹下諸佛。現神力時。滿百千歲。然後還攝  
 ぜつそう いちじーきようがい くーぐーたんじー ぜーにーおんじよう へんしーじつぼう しよ  
 舌相。一時警效。俱共彈指。是二音聲。徧至十方。諸

ぶつせーかい じーかいろくしゅしんどう ごとちゅうしゅじょう てんりゅう やーしゃ けんだつ  
 佛世界。地皆六種震動。其中衆生。天。龍。夜叉。乾闥  
 婆ー あしゅらー かる ー きん なら まご ー がー にんびーにんとう ー  
 婆。阿脩羅。迦樓羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。以  
 ぶつじんりきこー かいけんしーしゃばーせーかい むーりようむーへん ひやくせんまんのく しゅ  
 佛神力故。皆見此娑婆世界。無量無邊。百千萬億。衆  
 ほうじゅげー しーしーぎーじょうしよぶつ ぎつけん しゃか むに ぶつ ぐーたーほうによ  
 寶樹下。師子座上諸佛。及見釋迦牟尼佛。共多寶如  
 らい ざいほうとうちゅう ざーしーしーぎー うーけんむーりようむーへん ひやくせんまんのく  
 來。在寶塔中。坐師子座。又見無量無邊。百千萬億。  
 ぼーさつまーかーさつ ぎつしよしーしゅ くーぎょういーによう しゃか むに ぶつ きーけん  
 菩薩摩訶薩。及諸四衆。恭敬圍繞。釋迦牟尼佛。既見  
 ぜーいー かいだいかんぎー とくみーぞううー そくじーしよてん おーこーくうちゅう こう  
 是已。皆大歡喜。得未曾有。卽時諸天。於虛空中。高

しょうしよごん かーしーむーりようむーへん ひやくせんまんのく あーそうぎーせーかい うーこく  
 聲唱言。過此無量無邊。百千萬億。阿僧祇世界。有國  
 みようしやばーぜーちゆううーぶつ みようしやか むに こんにーしよばーさつまーかーさつ  
 名娑婆。是中有佛。名釋迦牟尼。今爲諸菩薩摩訶薩。  
 せつだいじようきよう みようみようほうれんげー きようばーさつほう ぶつしよごーねん によとう  
 說大乘經。名妙法蓮華。教菩薩法。佛所護念。汝等  
 とうじんしんずいきー やくとうらいはいくーよう しゃか むに ぶつ ひーしよしゆじよう  
 當深心隨喜。亦當禮拜供養。釋迦牟尼佛。彼諸衆生。  
 もんこーくうちゆうしやういー がつしやうこうしやばせーかい さーによぜーごん なーむーしや  
 聞虛空中聲已。合掌向娑婆世界。作如是言。南無釋  
 か むに ぶつ なーむーしやか むに ぶつ いーしゆじゆけーこう ようらくばんがい  
 迦牟尼佛。南無釋迦牟尼佛。以種種華香。瓔珞旛蓋。  
 ぎつしよごんしんしーぐーちんぼうみようもつ かいぐーようさん しゃばーせーかい しょさん  
 及諸嚴身之具。珍寶妙物。皆共遙散。娑婆世界。所散

諸物。從十方來。譬如雲集。變成寶帳。徧覆此間。諸  
しよもつ じゆうじつぼうらい ひーにようんじゆう へんじようぼうちよう へんぷーしーけん しよ  
 佛之上。于時十方世界。通達無礙。如一佛土。爾時佛  
ぶつしーじよう うーじーじつぼうせーかい つうだつむーげー によいちぶつどー にーじーぶつ  
 告。上行等菩薩大衆。諸佛神力。如是無量無邊。不可  
ごう じようぎようとうぼーさつだいしゆ しよぶつじんりき によぜーむーりようむーへん ふーかー  
 思議。若我以是神力。於無量無邊。百千萬億。阿僧祇  
しーぎーにやくがーいーぜーじんりき おーむーりようむーへん ひやくせんまんのく あーそうぎー  
 劫。爲屬累故。說此經功德。猶不能盡。以要言之。如  
こう いーぞくるいこー セツしーきようくーどく ゆうふーのうじん いーようごんしー によ  
 來一切所有之法。如來一切自在神力。如來一切祕要  
らいいつさいしようしーほう によらいいつさいじーざいじんりき によらいいつさいひーよう  
 之藏。如來一切甚深之事。皆於此經。宣示顯說。是故  
しーぞう によらいいつさいじんじんしーじー かいおーしーきよう せんじーけんぜつ ぜーこー



によとう おーによらいめつごー おうとういツしん じゅじー ぞくじゅ げーせつ しよしゃ  
 汝等。於如來滅後。應當一心。受持。讀誦。解說。書寫。  
 によせつしゅぎよう しよざいこくどー にかくうーじゅじー ぞくじゅ げーせつ しよしゃ によせつ  
 如說修行。所在國土。若有受持。讀誦。解說。書寫。如說  
 しゅぎよう にかくきようがんしよじゅうしーしよ にかくおーおんちゅう にかくおーりんちゅう にかくおー  
 修行。若經卷所住之處。若於園中。若於林中。若於  
 じゅげー にかくおーそうぼう にかくびやくゑーしゃ にかくざいでんどう にかくせんごつこうやー  
 樹下。若於僧坊。若白衣舍。若在殿堂。若山谷曠野。  
 ぜーちゅうかいおう きーとうくーよう しよいーしゃがー とうちーぜーしよ そくぜーどう  
 是中皆應。起塔供養。所以者何。當知是處。即是道  
 じよう しよぶつおーしー とくあーのくたーらーさんみやくさんぼーだい しよぶつおーしー てん  
 場。諸佛於此。得阿耨多羅三藐三菩提。諸佛於此。轉  
 のーほうりん しよぶつおーしー にーはつねーはん にーじーせーそん よくじゅうせん しぎ  
 於法輪。諸佛於此。而般涅槃。爾時世尊。欲重宣此義。

にーせつげーごん

而説偈言

しよぶつくーせーしゃ

諸佛救世者

ぜツそうしーぼんでん

舌相至梵天

しよぶつきやうがいししやう

諸佛警歎聲

いーぶつめつどーごー

以佛滅度後

ぞくるいぜーきやうこー

屬累是經故

ぜーにんしーくーどく

是人之功德

じゅうおーだいじんづう

住於大神通

しんぼうむーしゅこーう

身放無數光

ぎゅうたんじーしーししやう

及彈指之聲

のうじーぜーきやうこー

能持是經故

さんみーじゅじーしゃ

讚美受持者

むーへんむーうーぐう

無邊無有窮

いーえつしゅじやうこー

為悅衆生故

いーぐーぶつどうしゃ

為求佛道者

しゅうもんじつぽうこく

周聞十方國

しよぶつかいかんぎー

諸佛皆歡喜

おーむーりやうこつちゅう

於無量劫中

によじつぽうこーくう

如十方虛空

げんむーりやうじんりき

現無量神力

げんしーけーうーじー

現此希有事

じーかいろくしゅどう

地皆六種動

げんむーりやうじんりき

現無量神力

ゆうこーふーのうじん

猶故不能盡

ふーかーとくへんざい

不可得邊際

のうじーぜーきようしゃ

能持是經者

うーけんがーこんにち

又見我今天

めつどーたーほうぶつ

滅度多寶佛

やツけんやツくーよう

亦見亦供養

のうじーぜーきようしゃ

能持是經者

みようじーぎゅうこんじー

名字及言辭

おーによらいめつごー

於如來滅後

そくいーいーけんがー

則為已見我

きようけーしよぼーさつ

教化諸菩薩

いっさいかいかんぎー

一切皆歡喜

やくりようとかんぎー

亦令得歡喜

ふーくーやくとうとく

不久亦當得

ぎようせつむーぐうじん

樂說無窮盡

ちーぶつしよせつきよう

知佛所說經

やツけんたーほうぶつ

亦見多寶佛

のうじーぜーきようしゃ

能持是經者

じつぼうげんざいぶつ

十方現在佛

しよぶつざーどうじよう

諸佛坐道場

のうじーぜーきようしゃ

能持是經者

によふうおーくうちゆう

如風於空中

いんねんぎゅうしーだい

因縁及次第

ぎツしよふんじんしゃ

及諸分身者

りようがーぎゅうふんじん

令我及分身

びようかーこーみーらい

并過去未來

しよとくひーようほう

所得祕要法

おーしよほうしーぎー

於諸法之義

いっさいむーしようげー

一切無障礙

ざいぎーによじつせつ

隨義如實說

によにちがツこうみよう

如日月光明

のうじよしよゆうみよう

能除諸幽冥

しーにんぎようせーけん

斯人行世間

のうめツしゅじようあん

能滅衆生闇

きようむりりようぼーさつ

教無量菩薩

ひツきようじゅういちじよう

畢竟住一乘

ぜーこーうーちーしゃ

是故有智者

もんしーくーどくりー

聞此功德利

おーがーめつどーごー

於我滅度後

おうじゅじーしーきよう

應受持斯經

ぜーにんのーぶつどう

是人於佛道

けつじようむーうーぎー

決定無有疑

みようほうれんげーきよう ぞくるいほん だいにーじゅうにー

○妙法蓮華經。屬累品。第二十二

にーじーしゃか むに ぶつ じゅうほうぎーきーげんだいじんりき いーうーしゅまーむー  
 爾時釋迦牟尼佛。從法座起。現大神力。以右手摩。無  
 りようばーさつまーかーさつちよう にーさーぜーごん がーおーむーりよう ひやくせんまんのく あー  
 量菩薩摩訶薩頂。而作是言。我於無量。百千萬億。阿  
 そうぎーこう しゅじゅうぜーなんとく あーのくたーらーさんみやくさんぼーだいほう こんにー  
 僧祇劫。修習是難得。阿耨多羅三藐三菩提法。今以  
 ふーぞくによう によとうおうとういつしん るーふーしーほう こうりようぞうやく によぜー  
 付屬汝等。汝等應當一心。流布此法。廣令增益。如是  
 さんまー しよばーさつまーかーさつちよう にーさーぜーごん がーおーむーりよう ひやくせんま  
 三摩。諸菩薩摩訶薩頂。而作是言。我於無量。百千萬  
 のく あーそうぎーこう しゅじゅうぜーなんとく あーのくたーらーさんみやくさんぼーだいほう  
 億。阿僧祇劫。修習是難得。阿耨多羅三藐三菩提法。

こんにーふーぞくによとう によとうとうじゅじーどくじゅ こうせんしーほうりよういッさい  
 今以付屬汝等。汝等當受持讀誦。廣宣此法。令一切  
 しゅじょう ふーとくもんちー しいーしゃがー によらいうーだいじーひー ちーしよけん  
 衆生。普得聞知。所以者何。如來有大慈悲。無諸慳  
 りん やくむーしよいー のうよーしゅじょう ぶッしーちーえー によらいちーえー じーねん  
 慳。亦無所畏。能與衆生。佛之智慧。如來智慧。自然  
 ちーえー によらいぜーいッさいしゅじょうしーだいせーしゅ によとうやくおうずいがく によ  
 智慧。如來是一切衆生。之大施主。汝等亦應隨學。如  
 らいしーほう もッしよけんりん おーみーらいせー にかくうーぜんなんしー ぜんによにん  
 來之法。勿生慳慳。於未來世。若有善男子。善女人。  
 しんによらいちーえーしや とういーえんぜつ しーほッけーきょうしーとくもんちーいーりよう  
 信如來智慧者。當爲演說。此法華經。使得聞知。爲令  
 ごーにん とくぶッてーこー にかくうーしゅじょう ふーしんじゅしゃ とうおーによらい よー  
 其人。得佛慧故。若有衆生。不信受者。當於如來。餘

じんぼうちゆう じーきようりーきー によとうにやくのうによぜー そくいーいーほう しょぶつしー  
深法中。示教利喜。汝等若能如是。則爲已報。諸佛之  
おん じーしょぼーさつまーかーさつ もんぶつさーぜーせつちー かいだいかんぎー へんまん  
恩。時諸菩薩摩訶薩。聞佛作是說已。皆大歡喜。徧滿  
ごーしん やくかーくーぎよう こくぐうていづー がつしょうこうぶつ くーほつしょうごん によ  
其身。益加恭敬。曲躬低頭。合掌向佛。俱發聲言。如  
せーそんちよく とうぐーぶーぎよう ゆいねんせーそん がんばーうーりよ しょぼーさつまーかー  
世尊敕。當具奉行。唯然世尊。願不有慮。諸菩薩摩訶  
さつしゆ によぜーさんべん くーほつしょうごん によせーそんちよく とうぐーぶーぎよう ゆい  
薩衆。如是三反。俱發聲言。如世尊敕。當具奉行。唯  
ねんせーそん がんばーうーりよ にーじーしゃか むに ぶつりようじつぽうらい しょぶん  
然世尊。願不有慮。爾時釋迦牟尼佛。令十方來。諸分  
じんぶつ かくげんほんどー にーさーぜーごん しょぶつかくずいしよあん たーほうぶつとう  
身佛。各還本土。而作是言。諸佛各隨所安。多寶佛塔。

げんかーによこー。せつぜーごーじー。じつぼうむーりようふんじんしよぶつ。ぎーほうじゅげー  
 還可如故。說是語時。十方無量分身諸佛。坐寶樹下。  
 しーしーぎーじょうしやぎゅうたーほうぶつ。びようじようぎようとうむーへんあーそうぎー。ぼーさつ  
 師子座上者。及多寶佛。并上行等。無邊阿僧祇。菩薩  
 だいしゆ。しやりほつとうしよもんしーしゆ。ぎゅういつさいせーけん。てんにんあーしゆらー  
 大衆。舍利弗等。聲聞四衆。及一切世間。天人阿脩羅  
 とう。もんぶつしよせつ。かいだいかんぎー  
 等。聞佛所說。皆大歡喜



みようほうれんげーきよう

かんぜーおんぼーさつふーもんぼん

だいにーじゅうごー

○妙法蓮華經。觀世音菩薩普門品。第二十五

せーそんみようそうごー

がーこんじゅうもんびー

ぶつしーがーいんねん

みよういーかんぜーおん

世尊妙相具

我今重問彼

佛子何因緣

名爲觀世音

ぐーそくみようそうそん

げーとうむーじんにー

によちようかんのんぎよう

ぜんのうしよほうしよ

具足妙相尊

偈答無盡意

汝聽觀音行

善應諸方所

ぐーぜいじんによかい

りゃつこうふーしーぎー

じーたーせんのかぶつ

ほつだいしやうじやうがん

弘誓深如海

歷劫不思議

侍多千億佛

發大清淨願

がーいーによりやくせつ

もんみようぎつけんしん

しんねんふーくうかー

のうめつしやうーくー

我爲汝略說

聞名及見身

心念不空過

能滅諸有苦

けーしーこうがいいー

すいらくだいかーきよう

ねんぴーかんのんりき

かーきようへんじやうちー

假使興害意

推落大火坑

念彼觀音力

火坑變成池

わくびようるーこーがい

りゅうごーしよきーなん

ねんぴーかんのんりき

はーろうふーのうもつ

或漂流巨海

龍魚諸鬼難

念彼觀音力

波浪不能没

或 在須彌峯

爲人所推墮

念彼觀音力

如日虛空住

或被惡人逐

墮落金剛山

念彼觀音力

不能損一毛

或值怨賊繞

各執刀加害

念彼觀音力

咸卽起慈心

或遭王難苦

臨刑欲壽終

念彼觀音力

刀尋段段壞

或囚禁枷鎖

手足被杻械

念彼觀音力

釋然得解脫

呪詛諸毒藥

所欲害身者

念彼觀音力

還著於本人

或遇惡羅刹

毒龍諸鬼等

念彼觀音力

時悉不敢害

わくざいしゅみーぶー

いーにんしよすいだー

ねんぴーかんのんりき

よにちこーくうじゅう

わくひーあくにんちく

だーらくこんごうせん

ねんぴーかんのんりき

ふーのうそんいちもう

わくちーおんぞくによう

かくしゅうとうかーがい

ねんぴーかんのんりき

げんそつきーじーしん

わくそうおうなんくー

りんぎようよくじゅしゅう

ねんぴーかんのんりき

とうじんだんだんねー

わくしゅきんかーさー

しゅそくひーちゅうかい

ねんぴーかんのんりき

しゃくねんとくげーだつ

しゅそーしよどくやく

しよよくがいしんじや

ねんぴーかんのんりき

げんぢやくおーほんにん

わくぐうあくらーせつ

どくりゅうしよきーとう

ねんぴーかんのんりき

じーしつぷーかんがい

にやくあくじゅういーによう

若惡獸圍繞

りーげーそうかーふー

利牙爪可怖

ねんぴーかんのんりき

念彼觀音力

しツそうむーへんぼう

疾走無邊方

がんじやぎゅうふツかつ

蚺蛇及蝮蠍

けーどくえんかーねん

氣毒煙火然

ねんぴーかんのんりき

念彼觀音力

じんしょうじーえーこー

尋聲自回去

うんらいくーせいいでん

雲雷鼓掣電

ごうばくじゅだいうー

降雹澍大雨

ねんぴーかんのんりき

念彼觀音力

おうじーとくしょうさん

應時得消散

しゅじょうひーこんやく

衆生被困厄

むーりょうくーひツしん

無量苦逼身

かんのんみょうちーりき

觀音妙智力

のうくーせーけんくー

能救世間苦

ぐーそくじんづうりき

具足神通力

こうしゅうちーほうべん

廣修智方便

じツぼうしよこくどー

十方諸國土

むーせツぷーげんしん

無刹不現身

しゅじゅしよあくしゅ

種種諸惡趣

じーごツきーちくしやう

地獄鬼畜生

しょうろうびやうしーくー

生老病死苦

いーぜんしつりやうめつ

以漸悉令滅

しんかんしやうじやうかん

眞觀清淨觀

こうだいちーえーかん

廣大智慧觀

ひーかんぎゅうじーかん

悲觀及慈觀

じやうがんにやうせんごう

常願常瞻仰

むくーしやうじやうこう

無垢清淨光

えーにちはーしよあん

慧日破諸闇

のうぶくさいふうかー

能伏災風火

ふーみやうしやうせーけん

普明照世間

ひーたいかいらいしん

悲體戒雷震

じーいーみやうだいうん

慈意妙大雲

じゅかんろーほううー

澍甘露法雨

めつじよぼんのうえん

滅除煩惱燄

じやうしやうきやうかんじよ

諍訟經官處

ふーいーぐんじんちゆう

怖畏軍陣中

ねんびーかんのんりき

念彼觀音力

しゅおんしつたいさん

衆怨悉退散

みやうおんかんぜーおん

妙音觀世音

ぼんのんかいちやうおん

梵音海潮音

しやうひーせーけんのん

勝彼世間音

ぜーこーしゅじやうねん

是故須常念

ねんねんもつしやうぎー

念念勿生疑

かんぜーおんじやうしやう

觀世音淨聖

おーくーのうしーやく

於苦惱死厄

のういーさーえーこー

能為作依怙

ぐーいっさいくーどく

具一切功德

じーげんじーしゅじやう

慈眼視衆生

ふくじゅかいむーりやう

福聚海無量

ぜーこーおうちやうらい

是故應頂禮

にーじーじーぢーぼーさつ

爾時持地菩薩。

そくじゆうざーきー

即從座起。

ぜんびやくぶつごん

前白佛言。

せーそん

世尊。

にやくうーしゅじやう

若有衆生。

もんぜーかんぜーおんぼーさつぽん

じーざいしーごう

ふーもんじーげん

じんづうりきしゃ

聞是觀世音菩薩品。

自在之業。

普門示現。

神通力者。

とうちーぜーにん

くーどくふーしょう

ぶつせつぜーふーもんぼんじー

しゅちゅうはちまんしーせん

當知是人。功德不少。

佛說是普門品時。

衆中八萬四千

しゅじょう

かいほつむーとうとう

あーのくたーらーさんみやくさんぼーだいしん

衆生。皆發無等等。

阿耨多羅三藐三菩提心

みようほうれんげーきよう だら にーほん だいにーじゅうろーく

○妙法蓮華經。陀羅尼品。第二十六

あーにー まーにー まーねー まーまーねー しーれい しやりにーてい しやみや

安爾。曼爾。摩禰。摩摩禰。旨隸。遮梨第。餘咩。

しゃびー たーいー せんてい もくてい もくたーびー しゃびー あーいーしゃびー

餘履。多瑋。羶帝。目帝。目多履。沙履。阿瑋娑履。

そうびー しゃびー しゃえい あーしゃえい あー ぎに せんてい しゃびー

桑履。娑履。又裔。阿又裔。阿耆膩。羶帝。餘履。

だら にー あーろーきや ばーしゃ はーしゃびーしゃにー ねーびーてい あーべん

陀羅尼。阿盧伽。婆娑。簸蔗毗又膩。禰毗剃。阿便

たー らーねーびーてい あーたんだーはーれいしゅだい うーくーれい むーくーれい

哆。邏禰履剃。阿亶哆波隸輸地。歐究隸。牟究隸。

あーらーれい はーらーれい しゅきやしー あーさんまーさんびー ぼっだーびっ きり

阿羅隸。波羅隸。首迦差。阿三磨三履。佛馱毗吉利

じつてい だるまーはーりーしーてい そうぎやねいくーしゃねい ばーしゃばーしゃしゅだい  
 袞帝。達磨波利差帝。僧伽涅槃瞿沙禰。婆舍婆舍輸地。  
 まん たら まん たら しゃやーたー うーろーたー うーろーたー きょうしゃりや  
 曼哆邏。曼哆邏又夜多。郵樓哆。郵樓哆。憍舍略。  
 あーしゃらー あーしゃやーたーやー あーばーろー あーまーにや なーたーやー ぎーれい  
 惡叉邏。惡叉冶多冶。阿婆盧。阿摩若。那多夜。瘞隸。  
 まーかーぎーれい うツき もツき あーれい あーらーはーてい ねーれい  
 摩訶瘞隸。郁枳。目枳。阿隸。阿羅婆第。涅槃第。  
 ねーれいたーはーてい いーちーにー いーちーにー しーちーにー ねーれい  
 涅槃多婆第。伊緻柅。韋緻柅。旨緻柅。涅槃墀柅。  
 ねーりーちーはーちー あーりー なーりー とーなーりー あーなーろー なーびー  
 涅槃墀婆底。阿梨。那梨。寃那梨。阿那盧。那履。  
 くーなーびー あーきやねー きやねー くーりー けんだーりー せんだーりー  
 拘那履。阿伽禰。伽禰。瞿利。乾陀利。旃陀利。

まーとうぎー じょうぐーりー ぶーろーしゃにー あっちー いーでいびー いーでいみん  
 摩蹬者。常求利。浮樓莎柅。頰底。伊提履。伊提泯。  
 いーでいびー あーでいびー いーでいびー でいびー でいびー でいびー  
 伊提履。阿提履。伊提履。泥履。泥履。泥履。泥履。泥履。  
 でいびー ろーけい ろーけい ろーけい ろーけい たーけい たーけい たーけい  
 泥履。樓醯。樓醯。樓醯。樓醯。多醯。多醯。多醯。多醯。  
 とーけい とーけい とくむしようぼうにん  
 兜醯。兜醯。得無生法忍



みょうほうれんげいきょう ふーげんぼーさつかんぼつぼん だいにーじゅうはち  
○妙法蓮華經。普賢菩薩勸發品。第二十八

あーたんだい たんだーはーだい たんだーはーてい たんだーくーしゃれい たんだー  
阿檀地。檀陀婆地。檀陀婆帝。檀陀鳩賒隸。檀陀  
しゅだーれい しゅだーれい しゅ だら はつちー ぼつだーはーせんねい さるばー  
脩陀隸。脩陀隸。脩陀羅婆底。佛馱波羶禰。薩婆  
だら にー あーばーたーにー さるばーばーしゃ あーばーたーにー しゅあーばーたー  
陀羅尼。阿婆多尼。薩婆婆沙。阿婆多尼。脩阿婆多  
にー そうぎゃはーびーしゃにー そうぎゃねいきゃだーにー あーそうぎー そうぎゃ  
尼。僧伽婆履叉尼。僧伽涅槃陀尼。阿僧祇。僧伽  
はーぎゃだい ていれいあーだーそうぎゃとーりゃ あーらーてい はーらーてい さる  
婆伽地。帝隸阿惰僧伽兜略 阿羅帝。波羅帝。薩  
ばーそうぎゃ さんまーじー きゃらんだい さるばーだるまー しゅ はり セツてい  
婆僧伽。三摩地。伽蘭地。薩婆達磨。脩波利刹帝。

さるばーさツたー。ろーだーきようしゃりや。あーとーぎやだー。しん なび きり だいてい  
 薩婆薩埵。樓駄憍舍略。阿菟伽地。辛阿毗吉利地帝  
 しょがんぷーこー。やくおーげんぜー。とくごーふくほう。にやくうーにん きようきー  
**所願不虛**。亦於現世。得其福報。若有人。輕毀  
 しーごん。によおうにんにー。くうさーぜーぎようしゅうむーしよぎやく。によぜーざいほう  
 之言。汝狂人耳。空作是行。終無所獲。如是罪報。  
 とうせーせーむーげん。にやくうーくーよう。さんだんしーしや。とうおーこんぜー。とく  
 當世世無眼。若有供養。讚歎之者。當於今世。得  
 げんかーほう。にやくぶーけんじゅじー。ぜーきようでんしや。すいごーかーあく。にやくじつ  
 現果報。若復見受持。是經典者。出其過惡。若實。  
 にやくふーじつ。しーにんげんぜー。とくびやくらいびよう。にやくうーきようしょうしーしや。とう  
 若不實。此人現世。得白癩病。若有輕笑之者。當  
 せーせー。げーしーそーけつ。しゅしんびようびー。しゅぎやくりようらいげんもくかくらい  
 世世。牙齒疎缺。醜脣平鼻。手脚繚戾。眼目角眦。

しんたいしゅえー あくそうのうけつ すいふくたんけーしよあくじゅうびようぜーこーふー  
身體臭穢。惡瘡膿血。水腹短氣。諸惡重病。是故普  
げん にヤツけんじゅじー ぜーきようでんしゃ とうきーおんごう とうによきようぶつ せつ  
賢。若見受持。是經典者。當起遠迎。當如敬佛。說  
ぜーふーげん かんぼツぼんじー ごうがーしゃとう むーりようむーへんぼーさつ とくひやく  
是普賢。勸發品時。恆河沙等。無量無邊菩薩。得百  
せんまんのくせん だら にー さんぜんだいせんせーかい みーじんとう しょぼーさつ  
千萬億旋陀羅尼。三千大千世界。微塵等。諸菩薩。  
ぐーふーげんどう ぶつせつぜーきようじー ふーげんとう しょぼーさつ しゃりほつとう  
具普賢道。佛說是經時。普賢等。諸菩薩。舍利弗等  
しよしようもん ぎつしよてんりゆう にんぴーにんとう いっさいだいえー かいだいかんぎー  
諸聲聞。及諸天龍。人非人等。一切大會。皆大歡喜。  
じゅじーぶつごー さーらいにーこー  
受持佛語。作禮而去

よく りよう しゅ  
欲 令 衆

しよぶつーせーそん

しゅーじよう

ぶつちーけん

ひら

諸佛世尊は、衆生を、し、て、佛知見を、開か、し、め、

しようじよう

え

ほつ

ゆえ

清淨なることを、得せし、めんと、欲するが、故に、

よー

しゅつげん

しゅーじよう

ぶつちーけん

しめ

世に、出現したもう。衆生に、佛知見を、示さんと、

ほつ

ゆえ

よー

しゅつげん

しゅーじよう

欲するが、故に、世に、出現したもう。衆生を、

ぶつちーけん

さと

ほつ

し、て、佛知見を、悟ら、し、めんと、欲するが、

ゆえ

よー

しゅつげん

しゅーじよう

ぶつちー

故に、世に、出現したもう。衆生を、し、て、佛知

見けんのどう道いにい入いらしめんとと欲するが故ゆえによ、世よ

しゅつげん

しやりほつ

こ

しよぶつ

たーだーいちだ

にい出現したもう。舍利弗、是れを諸佛は唯一大

じー

いんねん

もつ

ゆえ

よー

しゅつげん

事の因縁を以ての故に、世に出現したもう

となづく。

さんがい

やす

三界は安きことなし。猶お火宅の如し。

しゅーくーじゅーまん

はなは

ふい

な

かたく

ごと

衆苦充満して、甚だ怖畏すべし。常に生・老・

びよう

しー

うーげん

かく

ごと

ら

ひー

しーねん

病・死の憂患あり。是の如き等の火、熾然とい

しーてー息やまずー。如來はー已によーらいにー三界さんがいのー火宅かたくーをー離はな

れーてー、寂然じゃくねんとーしーてー閑居げんこーしー林野りんやーにー安處あんじよーせーりー。

今此いまこーのー三界さんがいはー皆みなこー是れー我わーがー有うなりー。其その中なかのー

衆生しゅーじようはー悉ことごとくー是れー吾わーがー子こなりー。而しかもー今此いまこーの處ところ

はー諸もろもろのー患難げんなん多おおしー。唯我ただわー 一人いちにんのーみー能よーくー救護くごをー

なーすー。

我わー化れーけーの四衆しーしゅー比丘びく・比丘尼びく及にーびー清信しょうしん士女じにょをー遣つかわし

ほつしー くーよう もろもろ しゅーじよう いんどう

て、法師をー供養せしめー諸のー衆生をー引導しーて、

これ あつ ほう き も ひーとーあくとうじよう

之をー集めーてー法をー聽かしーめん。若し人惡刀杖

およ がしゃくー くわ ほつ すなわー へんげー

及びー瓦石をー加えんとー欲せーば、則ちー變化のー

ひと つか これ ため えご

人をー遣わしてー之がー爲にー衛護とーなりさん。

そ とき ほうとう うち だいおんじよう いだ

爾の時にー寶塔のー中よりりー大音聲をー出しーてー

ほ のたま ぜんざいぜんざい しゃか むに せーそん よー

歎めてー言わく、善哉善哉、釋迦牟尼世尊、能くー

びようどうだいえー きようぼーさつぼう ぶつしよーごーねん みようほけきよう

平等大慧・教菩薩法・佛所護念のー妙法華經をー

もツ だいしゅー 以て ため 大衆の と 爲に かく 説きた ごと たりもう。 是の ごと 如し、 是 かく  
ごと の しゃか 如し、 むに 釋迦牟尼 せーそんしよせつー 世尊所説の ごと 如き みなこー は みなこー 皆是れ かく  
しんじつ 眞實な しんじつ あり。



みようほうれんげいきよう だいばーだつたーほん だいじゅうにー

妙法蓮華經。提婆達多品。第十二

そ とき ほとけーもろもろ ぼさつーおよ てん にん ししゅ つ

爾の時に佛、諸の菩薩及び天人・四衆に告

わーれーかーこーむーりようこう なか おい ほけ

げたまわりく、吾過去無量劫の中に於て法華

きよう もと けーげん たーこう

經を求めしに、懈倦あることなりし。多劫

なか おい つね こくおう な がん おこ

の中に於て常に國王と作つて、願を發

むーじようぼーだい もと こころーたいてん

して無上菩提を求めしに、心退轉せざり。

ろく はら みつ まんぞく ほつ ふせ

六波羅蜜を満足せんと欲するをもつて布施

を勤行せしに、心に象馬・七珍・國城・妻子・  
ごんぎよう こころ ぞうめ しつちん こくじよう さいし  
ぬーびー ぼくじゆう ずもく ずいのう しんにく しゅそく りんじやく  
 奴婢・僕從・頭目・髓腦・身肉・手足を悵惜する  
くーみよう おし とき  
 こーとーなりくり、軀命をーも惜まりざりきり。時にー  
よー にんみんじゅーみようむーりよう ほう ため ゆえ こくい  
 世のー人民壽命無量なりり。法のー爲のー故にー國位  
す まつりーごと たいしー まか つづみーう しーほう  
 をー捨ててー政をー太子にー委せり、鼓をー撃つてー四方にー  
せんりよう ほう もと たれ よー わ ため  
 宣令しーてー法をー求めーきり。誰かー能くー我が爲にー  
だいじよう とー もの わーれーまさ みーおわ  
 大乘をー説かん者なりり。我當にー身終るーまりでー

くーきゆう

そうしー

とき

せんにな

きーた

供給しー走使すべしー。時にー仙人ありー、來つてー

おう

もう

もう

わーれーだいじよう

たも

王にー白しーてー言さーくり、我大乘をー有てーりー、

みようほうれんげーきよう

なづ

もー

われ

たが

妙法蓮華經とー名けーたてまつるー。若しー我にー違

まさ

ため

せんぜつ

おう

せん

わーずんばー、當にー爲にー宣説すべしー。王、仙のー

ことばー

かんぎーゆやくー

すなわー

せんにな

したが

言をー聞いてー歡喜踊躍しー、即ちー仙人にー隨つてー

しよしゆ

くーきゆう

このみー

みず

くー

たきぎー

所須をー供給しー、果をー採りー、水をー汲みー、薪をー

ひろ

じき

もう

ないしーみ

もつ

じようぎー

拾いー、食をー設けー、乃至身を以てー牀座とー

作なせししんじんものうりに、身心倦しんじんものうきこときりとなかりきりきり。時ときにし

ぶぶじ

せんざい

へー

ほう

ため

ゆえ

奉事ぶじするこせんざいりとな千歳せんざいをへりな經ほうてためり、法ほうのゆえりな爲なのゆえりな故ゆえにし

しょうごん

きゅうじ

とぼ

ところ

精勤しょうごんしきゅうじり給侍きゅうじしとりてとり、乏とぼしとき所ところなとからとりしとめときとり。

そ

とき

せーそん

かさ

こ

ぎ

の

ほつ

爾その時ときにせーそんり世尊せーそん、重かさねこりてぎり此のの義のをのり宣ほつべんとしり欲ほつ

しげりてとり、偈げを説といてのたまり言のたまわかこくこうり。我わ過れ去かこのこり劫こうをし

おーも

だいほう

もと

ゆえ

よー

念おーもうだいほうにもとり大法だいほうをゆえり求よーむるしをしりもしつてしりのり故ゆえにしり、世よーのし

こくおう

な

いえど

ごよく

らく

むさぼ

國王こくおうとなり作いえどれりごよくりらくとむさぼり雖むさぼもしり五欲ごよくのらくり樂むさぼをしり貪むさぼらむさぼざり

きり。鐘かねをつ椎しいてほう四方つにたれ告だいぐり、誰たれかほう大法ほうをり

有たもてものりるも者わなりためるげ。若せつしつ我たがめ為ににに解げ説せつせつばつ

身み當まさにぬ奴ぼ僕くとな為なるなべきしき。時ときにあ阿あ私し仙せんありりり

來きつきたてだいおうう大王もうにわ白れさみりみくみ、我わ微れ妙みのよ法うをほう有たもてり

りせ世けん間けんにけ希う有となこりころるり所となとりとりと。若もしよ能よくし修し行ぎ

せわばれ我れ當まさになん汝じがた為めにと説とくとべきしき。時ときにお王う、

仙せんのこ言ごをき聞きいてこ心ころにだ大だ喜き悅えつをし生しじし即し便う

せんりん

したが

しよしゆ

くーきゆう

たきぎーおよ

このみーくさのみ

仙人にー随つてー所須をー供給しー、薪及びー果菘をー

と

とき

したが

くーぎゆう

あた

こころー

採つてー時にー随つてー恭敬しーてー與えーきー。情にー

みようほう

ぞん

ゆえ

しんじんけーげん

妙法をー存ぜるがー故にー身心懈怠なかりーきー。

あまねー もろもろ

しゅーじよう

ため

だいほう

ごんぐー

まーたーおの

普くー諸のー衆生のー爲にー大法をー勤求しーてー亦已

みーおよ

ごよくー

らく

ため

かるがーゆえ

がー身及びー五欲のー樂のー爲にーせーずー。故にー

だいくく

おう

な

ごんぐー

こ

ほう

えー

大國のー王とー爲つてー勤求しーてー此の法をー獲てー

つい

じようぶつ

う

いた

いーまーかるがーゆえ

遂にー成佛をー得ることをー致せーりー。今故にー

なんじー ため とー ほとけー もろもろ びく っ

汝がー爲にー説くー。佛諸のー比丘にー告げたまわーくー、

そ とき おう すなわー わ みーこ とき

爾の時のー王とーはー則ちー我が身是れなーりー。時のー

せんじん いま だいばーだつたーこ

仙人とーはー今のー提婆達多是れなーりー。提婆達多がー

ぜんちしきー よ ゆえ われ ろく はら みつ

善知識にー由るがー故にー、我をーしーてー六波羅蜜・

じ ひ きーしゃー さんじゅうにーそう はちじゅうしゅーごう し ま こんじき

慈悲喜捨・三十二相・八十種好・紫磨金色・

じゅうりき し むしよーいー しーしやうぼう じゅうはつぷーぐー じんづうどうりき

十力・四無所畏・四攝法・十八不共・神通道力をー

ぐそくー どうしやうがく じょう ひろ

具足せしめーたりー。等正覺をー成じーてー廣くー

しゅーじよう ど

みーなーだいばーだつたー ぜんちしきー

衆生をー度するーこーとー、皆提婆達多がー善知識にー

よ ゆえ

もろもろ

ししゅ

っ

因るがー故なーりー。諸のー四衆にー告げたまわーく、

だいばーだつたーさ

のーちーむーりようこう

す

まさ

じようぶつ

提婆達多却つてー後無量劫をー過ぎてー、當にー成佛

う

なー

てんのうによーらい

おうぐー

しろうへん

することをー得べしー。號をー天王如來・應供・正徧

ちー みようぎようそく ぜんぜい

せーけんげー

むーじようじー じようごーじようぶー

知・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・

てんにんしー ぶつ

せーそん

せーかい

てんどう

なづ

天人師・佛・世尊とーいーわん。世界をー天道とー名け

とき

てんのうぶつ

よー

じゅう

にーじゅつちゅうこう

ん。時にー天王佛、世にー住するこーとー二十中劫、



ひろ しゅーじょう ため みようほう とー ごうがしや しゅーじょう

廣く衆生の爲に妙法を説かん。 恆河沙の衆生

あらかんがー えー むーりよう しゅーじょうえんがく こころー おこ

阿羅漢果を得、無量の衆生縁覺の心を發し、

ごうがしや しゅーじょうむーじょうどう こころー おこ むーしょうにん えー

恆河沙の衆生無上道の心を發し無生忍を得、

ふーたいてん じゅう てんのうぶつ はつねーはん のーちー

不退轉に住せん。時に天王佛、般涅槃の後

しょうぼうよー じゅう にーじゅつちゅうこう ぜんしん しやり

正法世に住するこゝと二十中劫、全身の舍利

しつぼう とう た たか ろくじゅうゆーじゅん じゅうこう

に七寶の塔を起てて、高さ六十由旬、縱廣

しーじゅうゆーじゅん しよーてん にんみん ことごと ぎつけー まつこう

四十由旬なりらん。 諸天・人民 悉く雜華・抹香・

しょうこう

ザーこう

えぶくー

ようらく

どうばん

ほうがい

ぎーがく

か

焼香・塗香・衣服・瓔珞・幢幡・寶蓋・伎樂・歌

じゅ

もつ

しつぼう

みょうとう

らいはい

くーよう

頌をー以てー、七寶のー妙塔をー禮拜しー供養せん。

むーりよう

しゅーじようあら

かんがー

えー

むしゅ

しゅーじようびやくしーぶつ

無量のー衆生阿羅漢果をー得、無数のー衆生辟支佛

さと

ふか しぎ

しゅーじようぼーだいしん

おこ

をー悟りー、不可思議のー衆生菩提心をー發しーてー

ふーたいてん

いた

ほとけーもろもろ

びく

つ

不退轉にー至らん。佛諸のー比丘にー告げたまわーくー、

みーらいせー

なか

もー

ぜんなんしー

ぜんによーにん

未來世のー中にー若しー善男子・善女人あつてー、

みようほけきよう

だいばーだつたーほん

き

じようしん

しんきよう

妙法華經のー提婆達多品をー聞いてー、淨心にー信敬

しゝて疑惑を一生ぜざらん者は、ぎわくー しょう もの じごくー がーきー地獄・餓鬼・

畜生に墮ちずしゝて十方の佛前に生ぜん。ちくしょう お じゅつぽう ぶつぜん しょう所

生の處には常に此の經を聞かん。しょう ところ つね きこ きょう きー もー にな だん若し人・天

の中に生るれば勝妙の樂を受け、なか うま しょうみやう らく うー もー ぶつぜん若し佛前

にあらば蓮華より化生せん。れんげー けーしょう とき げーほう たー時に下方の多

寶世尊の所從の菩薩、ほうせーそん しょうゆ ぼさつー なー ちしゃくー たーほう名を智積という。多寶

佛に啓さりく、ぶつ もう まさ ほんど かえ當に本土に還りたりもうべし。

しゃかむにぶつ　ちしゃくー　つ　のたま　ぜんなんしー　しばらー  
 釋迦牟尼佛、智積に告げて、曰わく、善男子、且く  
 しゅゆ　まー　ここ　ぼさつー　もんじゅーしり　なづ  
 須臾を待て。此に菩薩あり、文殊師利と名  
 とも　あいみ　みようほう　ろんぜつ　ほん  
 くり。與に相見るべし。妙法を論説して本  
 どー　かえ　そ　とき　もんじゅーしーりー　せんよう  
 土に還るべし。爾の時に文殊師利、千葉の  
 れんげー　おおいー　しゃーりん　ごと　ざー　とも  
 蓮華の大さ車輪の如くなるに坐し、俱に  
 きた　ぼさつー　まーたほうれんげー　ざ　だいかい　しゃ  
 來れり菩薩も亦寶蓮華に坐して、大海の娑  
 からーりゅうぐう　じーねん　ゆーじゅつ　こーくう　なか  
 竭羅龍宮より自然に涌出し、虚空の中に

じゅう

りようじゅーせん

もう

れんげー

お

住しー、靈鷲山にー詣でてー蓮華よりー下りてー

ぶつぜん

いた

ブーめん

にせそん

みあしー

きょうらい

佛前にー至りー、頭面にー二世尊のー足をー敬禮しー、

うやまい

しゅ

すで

おーわ

ちしゃくー

ところー

敬をー修するーこーとー已にー畢つてー、智積のー所にー

ゆ

とも

あいいーもん

さ

いちめん

ぎ

往いてー共にー相慰問しー、却つてー一面にー坐しぬー。

ちしゃくーぼさつーもんじゅーしり

と

きーみーりゅうぐう

ゆ

智積菩薩、文殊師利にー問わくー、仁、龍宮にー往い

け

ところー

しゅーじょう

そ

かーずいくばく

もんじゅーしり

てー化するー所のー衆生、其の數幾何ぞー。文殊師利

い

そ

かーずむーりよう

しょうけい

のー言わくー、其の數無量にーしーてー稱計すべから

くち の ところー あら ところー はか ところー あら  
 ずー。口のー宣ぶるー所にー非ずー、心のー測るー所にー非

しばらー しゅゆ まー おのずか まさ しゅう

ずー。且くー須臾をー待てー。自らー當にー證あるべー

しよーごんいま おわ ぶしゅ ぼさつーほうれん

しー。所言未だー竟らーざるにー、無數のー菩薩寶蓮

げー ざ うみ ゆーじゅつ りようじゅーせん もう

華にー坐してー海よりー涌出しー、靈鷲山にー詣でー

こーくう じゅうざい こー もろもろ ぼさつー

てー虚空にー住在せーりー。此のー諸のー菩薩はー、

みなこー もんじゅーしり けど ところー ぼさつー

皆是れー文殊師利のー化度せーるー所なりー。菩薩のー

ぎょう ぐ みなとも ろく はら みつ ろんぜつ もーとーしやう

行をー具してー皆共にー六波羅蜜をー論説すー。本聲

もん

ひと

こーくう

なか

あ

しょうもん

ぎよう

聞なりし一人は虚空の中にて在つて聲聞の一行を

とー

いまみーなだいじよう

くう

ぎー

しゅーぎよう

もんじゅーしーりー

説く。今皆大乘の空の義を修行す。文殊師利、

ちしゃくー

い

いわ

うみ

おい

きようけー

智積に謂つて曰く、海に於て教化せることと

そ

じーかく

ごと

そ

とき

ちしゃくーぼさつー

げ

其の事此の如し。爾の時に智積菩薩、偈を

もつ

ほ

いわ

だいちとくーゆうごん

むーりよう

以て讚めて曰く。大智徳勇健にして無量

しゅー

けど

いまこー

もろもろ

だいえー

およ

の衆を化度せり。今此の諸の大会、及び

われみーなすで

みー

じつそう

ぎー

えんちよう

いちじよう

我皆已に見つ。實相の義を演暢して一乗の

ほう

かいせん

ひろ

もろもろ

ぐんじょう

みちび

法をー開闡しーてー、廣くー諸のー群生をー導いてー

すみや

ぼーだい

じょう

もんじゅうしり

い

速かにー菩提をー成ぜしむー。文殊師利のー言わくー、

わーれーかいちゅう

おい

たーだーつね

みょうほけきょう

せんぜつ

我海中にー於てー唯常にー妙法華經をー宣説すー。

ちしゃくーぼさつー

もんじゅうしり

と

い

こ きょう

智積菩薩、文殊師利にー問うてー言わくー、此の經はー

じんじんみーみょう

しよーきょう

なか

たからー

よー

けう

甚深微妙にーしーてー諸經のー中のー寶、世にー希有なー

ところー

も

しゅうじょう

ごんかーしゅうじん

こ

きょう

るー所なーりー。頗ーしー衆生のー勤加精進しー此の經

しゅうぎょう

すみや

ほとけー

うー

いな

もん

をー修行しーてー、速かにー佛をー得るーありやー不や。文



じゅーしり

殊師利のー言わくー、

あー

有りー。

しゃからーりゅうおう

娑竭羅龍王のー女年

むすめーとーしー

はじ

始めーてー八歳なーりー。

はツさい

智慧利根にーしーてー、善くー

ちえりーこん

よー

しゅーじよう しよーこん

衆生のー諸根のー行業をー知りー、陀羅尼をー得、諸

ぎようごう

しー

だらにー

えー

しよ

ぶつー しよせつー じんじん

佛のー所説・甚深のー秘藏、悉くー能くー受持しー、深くー

ひーぞう

ことごと

よー

じゅじ

ふか

ぜんじよう

禪定にー入つてー諸法をー了達しー、刹那のー頃にー於てー

い

しよーほう

りようだつ

せつなー

あいだー

おい

ぼーだいしん

菩提心をー發しーてー不退轉をー得たりー。

おこ

ふーたいてん

え

べんざいむげ

辯才無礙

にーしーてー、衆生をー慈念するこーとー猶おー赤子のー

しゅーじよう

じーねん

なー

しゃくしー

ごと

くどくーぐそくー

こころー

おも

くち

の

如しー。功德具足しーてー、心にー念いー口にー演ぶるー

みーみようこうだい

じひにんじよう

しーいーわげ

こーとー微妙廣大なーりー。慈悲仁讓・志意和雅にー

よー

ぼーだい

いた

ちしゃくーぼさつー

い

しーてー能くー菩提にー至れーりー。智積菩薩のー言わ

わーれーしゃかによーらい

み

むーりようこう

くー、我釋迦如來をー見たてーまつれーばー、無量劫

おい

なんぎようくーぎよう

こう

つー

とく

かさ

にー於てー難行苦行しー功をー積みー徳をー累ねー

ぼさつー

どう

もと

いま

かつ

しそくー

てー、菩薩のー道をー求むるこーとー未だー曾てー止息

さんぜんだいせんせーかい

み

ないしーけ

したまわずー。三千大千世界をー觀るにー、乃至芥

し ごと ばか ことー ばさつー しんみよう

子のー如きー許りーも、是れー菩薩にーしーてー身命をー

す ところー あら

捨てたりもう處にー非ざるこーとーあるこーとーなりしー。

しゅーじよう ため ゆえ しーこう のち すなわー ぼー

衆生のー爲のー故なりり。然しーてー後にー乃ちー菩

だい どう じよう え しん

提のー道をー成ずることをー得たまえり。信ぜーじー、

にょー しゅゆ あいだー おい すなわー しょうがく じよう

この女のー須臾のー頃にー於てー便ちー正覺をー成ず

ごんろんいま おわ とき りゆうおう

ることをー。言論未だー訖らーざるに、時にー龍王のー

むすめーたちま みまえー げん ざーめん らいきよう

女忽ちにー前にー現じーて、頭面にー禮敬し、

却さつて一いち面に一じゅう住して、偈げを以もつて讚ほめて一もう曰いさ

く。『ふか深ざいふくく一そう罪福の相を達たつして、あまね徧じゅつぼうく一じゅつぼう十方を

てら み一みみよう きよ一きよ淨き法身、ほつしん相を具ぐせる

照しして一もう。微妙さんじゅうにの一はちじゅうしち淨ごうき法身、もつ相を具もせる

こ一さんじゅうにと一はちじゅうしち三十二八十種好を以もつて用もつて法身ほつしんを

莊嚴しょうごんせり。天てん・人にんの戴たいごう仰ごうする所龍神ところりゆうじんも咸ことごとく

恭敬くきぎようす。一切衆生いっさいしゅうじやうの類るい宗奉しゅうぼうせざる者ものなりし。

又また聞きいて一ぼ菩提だいを成じやうずるこ一たと一だ唯佛ほとけのまさ一ま當まに

しやうちー

證知したもうべーしー。我大乘のー教をー闡いてー

わーれーだいじよう きよう

ひら

く しゅーじよう どーだつ

そ とき しやりほつ りゆうによー

苦の衆生をー度脱せん。爾の時にー舍利弗、龍女にー

かーた

い なんじーひさしー

むーじようどう

え

語つてー言わくー、汝久からずーしーてー無上道をー得た

おも

こ

じーしん

がた

ゆえ

いーか

りーとー謂えーるー。是の事信じー難しー。所以はー何ん、

によーしん

くえ

こー

ほうきー

あら

いーか

女身はー垢穢にーしーてー是れー法器にー非ずー。云何ん

よー

むーじようぼーだい

え

ぶつどう

はるかー

むー

ぞー能くー無上菩提をー得ん。佛道はー懸曠なりー。無

りようこう

へー

ごんくー

ぎよう

つー

つぶ

量劫をー經てー勤苦しーてー行をー積みー、具さーにー

しよど しゅー しーこう のち すなわー じょう まーたーによー

諸度をー修しー、然しーてー後にー乃ちー成ずー。又女

にん み なー いっつーのーさわりー いっ ぼんでんのう

人の身にはー猶おー五障ありー。一にーはー梵天王とー

えー に たいしゃく さん まーおう

なることをー得ずー、二にはー帝釋、三にーはー魔王、

し てんりんじょうおう ご ぶツしん いーかん

四にはー轉輪聖王、五にはー佛身なりー。云何ぞー

によーしんすみや じょうぶつ え そ とき

女身速かにー成佛することをー得ん。爾の時にー

りゆうによーひとつー ほうじゅー けじきーさんぜんだいせん せーかい

龍女一のー寶珠ありー、價直三千大千世界な-

も もツ ほとけー たてまつ ほとけーすなわー これ

りー。持つてー以てー佛にー上るー。佛即ちー之をー受

けたりもう。りゆうによー ちしやくーぼさつー そんじゃーしやり ほつ龍女、智積菩薩・尊者舍利弗に

謂つて言わくり、わーれーほうじゅー たてまつ我寶珠を獻る。世尊の納受せーそん のうじゅー

是の事疾しや不や。こ じーと いな こた い答えて言わくり、甚だ疾し。

女の言わくり、によー い なんじー じんりき もつ わー じょうぶつ汝が神力を以て我が成佛を

觀より。みー まーたこ すみや とうじー しゅーえー復此れよりも速かならん。當時の衆會、

皆龍女の忽然の間に變じて男子となつて、みーなりゆうによー こつねん あいだー へん なんしー

菩薩の行を具して、ぼさつー ぎよう ぐ すなわー なんぼうむく せーかい ゆ即ち南方無垢世界に往

ほうれんげー

ぎ

とうしようがく

じょう

さんじゅう

いてー寶蓮華にー坐してー等正覺をー成じー、三十

にーそう

はちじゅうしゅーごう

あまねー

じゅつぼう

いつさいしゅーじょう

二相・八十種好あつてー、普くー十方のー一切衆生

ため

みょうぼう

えんぜつ

みー

そ

とき

のー爲にー妙法をー演説するをー見るー。爾の時にー

しゃば

せーかい

ぼさつー

しょうもん

てん

りゅう

はちぶー

にん

ひー

娑婆世界のー菩薩・聲聞・天・龍・八部・人とー非

にん

みーなーはる

かー

りゅうによー

じょうぶつ

あまねー

人とー皆遙かーにー彼のー龍女のー成佛しーてー、普

とき

えー

にん

でん

ため

ほう

と

みー

くー時のー會のー人・天のー爲にー法をー説くをー見てー、

こころーおおいー

かんぎー

ことごと

はる

きょうらい

心大にー歡喜しーてー悉くー遙かーにー敬禮すー。



むりりよう しゅーじようほう き げご ふーたいてん え  
無量のー衆生法をー聞いてー解悟しー不退轉をー得ー、  
むりりよう しゅーじようどう きー う え  
無量のー衆生道のー記をー受くるーことをー得たりー。  
むく せーかいろツペン しんどう しゃば せーかい さんぜん  
無垢世界六反にー震動すー。娑婆世界のー三千のー  
しゅーじようふーたい じー じゅう さんぜん しゅーじよう ぼーだい しん  
衆生不退のー地にー住しー、三千のー衆生、菩提心をー  
おこ じゅき え ちしゃくーぼさつーおよ しゃり ほつ  
發しーてー受記をー得たりー。智積菩薩及びー舍利弗、  
いっさい しゅーえーもくねん しんじゅー  
一切のー衆會默然とーしーてー信受すー。

みようほうれんげいきよう によーらいじゅーりようほん だいじゅーろく

# 妙法蓮華經。如來壽量品。第十六

わーれーほとけー え

このかーたーへ

ところー もろもろ

こつしゅー

我佛をー得てよーりー 來 經たるー所のー諸のー劫數

むーりようひやくせんまんおくさいあーそうぎ

つね ほう と

無量百千萬億載阿僧祇なりー。常にー法をー説いてー

むしゅおく しゅーじよう きようけー

ぶつどう い

無數億のー衆生をー教化しーてー佛道にー入らしーむー。

しか このかーたーむーりようこう

しゅーじよう ぞー

爾しーよーりー 來 無量劫なりー。衆生をー度せん

ため ゆえ ほうべん

ねーはん げん

しか

がー爲のー故にー方便しーてー涅槃をー現ずー。而もー

じつ めつどー

つね ここ

じゅー ほう

實にーはー滅度せーずー。常にー此にー住しーてー法をー

とー わーれーつね ここ じゅう もろもろ じんづうりき  
 説くー。我常にー此にー住すれどーもー諸のー神通力をー  
 もツ てんどう しゅーじょう ちか いえどー しか  
 以てー顛倒のー衆生をーしーてー近しーとー雖もー而もー  
 み しゅーわー めつどー みー ひろ しやり  
 見ざらーしーむー。衆我がー滅度をー見てー廣くー舍利  
 くーよう ことごと みーなーれんぼー いだ かつごう こころー  
 をー供養しー、咸くー皆戀慕をー懐いーてー渴仰のー心をー  
 しょう しゅーじょうすで しんぶく しちじき こころーにゆうなん  
 生ずー。衆生既にー信伏しー質直にーしーてー意柔軟にー  
 いっしん ほとけー み ほつ みずかー  
 一心にー佛をー見たてーまつらんとー欲しーてー自らー  
 しんみよう おし とき わーれーおよ しゅーそうとも りようじゅー  
 身命をー惜まーずー、時にー我及びー衆僧俱にー靈鷲

山せんにい出いづいり。我われ時ときにしゅ衆じゅう生じょうにかた語ごるら。常つねにここ此こにこ

ああつつてて減めせせずずり。方ほう便べん力りきをも以もててのの故ゆえにめ減め

不ふ滅めつありげんとげん現げんずげんり。餘よ國こくにしゅ衆じゅう生じょうのく恭ぎ敬ぎょうししん信ぎ樂よく

するわれ者まあたればかり、我なか復お彼いのた中めにお於いてた爲めにた

無む上じょうのほう法ほうをと説とくとり。汝なん等だ此ちれちをき聞きかきずきりしきてき

但た我われ滅めつ度どすおもりおもとおも謂おもえおもりおもり。我われ諸もろのしゅ衆じゅう生じょうをみ見み

れくばく苦く海かいにも没も在つせつりつり。故かにた爲めにみ身みをみ

げん

現げんぜずしそして其れをそしそして渴仰をそ生ぜしむそ。

かつごう

しょう

そー ころろーれんぼー

よ

すなわー

い

ため

ほう

其のー心戀慕するにー因つてー乃ちー出でてー爲にー法

とー

じんづうりきかく

ごと

あーそうぎーこう

おい

をー説くー。神通力是のー如しー。阿僧祇劫にー於てー

つね

りようじゅーせんおよ

よー

もろもろ

じゅうしよー

しゅーじよう

常にー靈鷲山及びー餘のー諸のー住處にーありー。衆生

こうつ

だいかー

や

み

とき

わー

劫盡きてー大火にー焼かるるとー見る時もー、我がー

こ

どー

あんのん

てんにんつね

じゅうまん

此の土はー安穩にーしそしてそ天人常にー充滿せそりー。

おんりんもろもろ

どうかくしゅじゅ

たからー

しょうごん

ほうじゅー

園林諸のー堂閣種種のー寶をーもつてー莊嚴しー、寶樹

けーかーおほ

しゅーじょう ゆーらく

ところー

しょーてん

花果多くーしーてー衆生のー遊樂する所なりー。諸天

てんくー

う

つね

もろもろ

ぎがくー

なー

まん

だら けー

天鼓をー撃つてー常にー諸のー伎樂をー作しー、曼陀羅華

ふ

ほとけーおよ

だいしゅー

さん

わー

じょうどー

をー雨らしーてー佛及びー大衆にー散ずー。我がー淨土はー

やぶ

しか

しゅー

や

つ

うーふーもろもろ

毀れーざるにー而もー衆はー燒け盡きてー、憂怖諸のー

くーのうかく

ごと

ことごと

じゅうまん

みー

こー

苦惱是のー如きー悉くー充滿せりとー見るー。是のー

もろもろ

つみ

しゅーじょう

あくごう

いんねん

もつ

あーそうぎーこう

諸のー罪のー衆生はー惡業のー因縁をー以てー阿僧祇劫

す

さんぼう

みな

き

もろもろ

あら

をー過ぐれーどーもー三寶のー名をー聞かずー。諸のー有

くどくー しゅー にゆうわーしちじき もの すなわー みーなー

ゆーるー 功德をー修しー 柔和質直なる者はー 則ちー 皆

わー みーここ ほう と みー あるとき

我が身此にーあつてー法をー説くとー見るー。 或時

こ しゅー ため ぶつじゅーむりよう とー ひさ

はー此の衆のー爲にー佛壽無量なりとー説くー。 久しーくー

いま ほとけー み もの ため

あつてー乃しー佛をー見たてーまつるー者にーはー爲にー

ほとけ あ がた とー わー ちりきーかく ごと

佛にはー値い難しーとー説くー。 我がー智力是のー如しー。

えーこうてら むりよう じゅーみようむしゅこうひさ ごう しゅ

慧光照すーこーとー無量にー壽命無數劫久しーくー業をー修

う とこころー なんだーちーち もーのーここ おい

してー得る所なりー。 汝等 智あらん者此にー於てー

うたがい しょう

疑をー生ずるこーとーなかれー。當にー斷じーてー永くー

まさ だん なが

っ

ぶつこー

じつ

むなしー

盡きしむべーしー。佛語はー實にーしーてー虚からずー。

い

よー

ほうべん

おうじー

じー

ため

醫の善きー方便をーもつてー狂子をー治せんがー爲のー

ゆえ

じつ

あ

しか

し

い

故にー實にーはー在れどーもー而もー死すとー言うにー

よー

こーもう

と

な

ごと

われ

まーたー

能くー虚妄をー説くもーのー無きがー如くー、我もー亦

こー

よー

ちーちーもろもろ

くーげん

すく

もの

ほんぶー

爲れー世のー父諸のー苦患をー救うー者なりー。凡夫

てんどう

もつ

じつ

あ

しか

のー顛倒せるをー爲てー實にーはー在れどーもー而もー



めツ 減すーとー言う。常にー我をー見るをー以てーのー故にー  
 しか きようしー ころろー しよう ほういつ ごとくー  
 而もー憍恣のー心をー生じー、放逸にーしーてー五欲にー  
 ちやく あくどう なか お わーれーつね しゅーじよう  
 著しー惡道のー中にー墮ちなん。我常にー衆生のー  
 どう ぎよう どう ぎよう し ど  
 道をー行じー道をー行ぜーざるをー知つてー度すべーきー  
 ところー したが ため しゅじゅ ほう とー つね  
 所にー随つてー爲にー種種のー法をー説く。毎にー  
 みずかー こ ねん なー なに もツ しゅーじよう  
 自らー是の念をー作す、何をー以てーかー衆生をーしー  
 むーじようどう いー すみや ぶツしん じようじゅー  
 てー無上道にー入りー速かにー佛身をー成就すること

を<sub>1</sub>得<sup>え</sup>せし<sub>1</sub>めんと<sub>1</sub>。

みょうほうれんげいきょう によーらいじんりきほん だいにーじゅういち

妙法蓮華經。如來神力品。第二十一

そ とき ほとけーじようぎようとう ぼさつーだいしゅー っ

爾の時に佛、上行等の菩薩大衆に告げたまわ

しよぶつー じんりき かく ごと むーりようむーへんふか

く、諸佛の神力は是の如く無量無邊不可

しぎ も わーれーこー じんりき もつ むーりようむーへん

思議なり。若し我是の神力を以て、無量無邊

ひやくせんまんのくあーそーぎーこう おい ぞくろい ため ゆえ

百千萬億阿僧祇劫に於て、屬累の爲の故に

こ きよう くだくー とー なー っ あた

此の經の功德を説かんに、猶お盡くすこーと能

よう もつ これ い によらい いっさい

わーじ。要を以て之を言わば、如來の一切

のー所有のー法・如來のー一切のー自在のー神力・如  
しょう ほう によーらい いっさい じーざい じんりき によー  
らい いっさい ひーよう ぞう によーらい いっさい じんじん  
 來のー一切のー秘要のー藏・如來のー一切のー甚深の  
じーみーなーこ きょう おい せんじーけんぜつ こ ゆえ  
 事・皆 此の經にー於てー宣示顯說すー。是の故にー  
なんだーちーによーらい めつごー おい まさ いっしん じゅ  
 汝等如來のー滅後にー於てー、應當にー一心にー受  
じ づくじゅー げーせつ しょうしゃ せつ ごと しゅーぎよう  
 持・讀誦しー、解説・書写しー、説のー如くー修行す  
しよーざい こくどー も じゅじ づくじゅー  
 べしー。所在のー國土にー、若しはー受持・讀誦しー、  
げーせつ しょうしゃ せつ ごと しゅーぎよう も きようがん  
 解説・書写しー、説のー如くー修行しー、若しはー經卷

所住しよーじゆうのところ一處いちじゆうありらん。若しもはその一園いちえんのなか一おひ於おてもとも、  
 若しもははやしー林はやしーのなか一おひ中なかにおひ於おてもとも、若しもはき一もと樹きのもと下もとにもと一  
 於おひてもとも、若しもはそうぼう一おひ僧坊そうぼうにおひ於おてもとも、若しも  
 はびやくえー一いえ白衣びやくえーのいえ一も舍いえにもても、若しもはでんどう一あ殿堂でんどうにあ在あつてあも、  
 若しもはせんごく一こうやー山谷せんごく・曠野こうやーにこても、是この中なかにみー一なう皆塔みーをた起た  
 ててくー一よう供養くーすべし。所以ゆえはいー一か何んいー、當まさにし一し知しるべし  
 し、是この處ところはすなわ一こー即ちこー是れどうじよう一しよぶつー道場どうじようなり。諸佛しよぶつ此こにこ

おい あーのくたーらーさんみやくさんぼーだい えー しょぶつーここ おい  
於てー阿耨多羅三藐三菩提をー得、諸佛此にー於てー  
ほうりん てん しょぶつーここ おい はつねーはん  
法輪をー轉じー、諸佛此にー於てー般涅槃したもう。

寶 塔 偈

此經難持

しきようなんじー

若暫持者

にやくざんじーしゃー

我即歡喜

がそくかんぎー

諸佛亦然

しよぶつやくねん

如是之人

によぜしーにん

諸佛所歎

しよぶつしよーたん

是則勇猛

ぜそくゆうみよう

是則精進

ぜそくしやうじん

是名持戒

ぜみようじかい

行頭陀者

ぎようずだーしゃー

則為疾得

そくいしつとく

無上佛道

むじやうぶつどう

能於來世

のうおーらいせー

讀持此經

どくじしきよう

是真佛子

ぜしんぶつしー

住淳善地

じゅうじゅんぜんじー

佛滅度後

ぶつめつどーごー

能解其義

のうげごーぎー

是諸天人

ぜしよーてんにん

世間之眼

せけんしーげん

於恐懼世

おくいーせー

能須臾說

のうしゅーゆーせつ

一切天人

いっさいてんにん

皆應供養

かいおうくよう

妙行聖訓



目次

- 一日 一闍浮提第一の御本尊を信じさせ給え……諸法実相鈔
- 二日 此の經の文字は皆悉く生身妙覺の……曾谷入道殿御返事
- 三日 一代聖教の中に法華經は明鏡の中の……神国王御書
- 四日 釈迦一仏の悦びたもうのみならず……持妙法華問答抄
- 五日 今本時の娑婆世界は三災を離れ……觀心本尊抄
- 六日 天晴れぬれば地明らかなり……觀心本尊抄
- 七日 天下萬民諸乗一仏乗と成つて……如説修行鈔
- 八日 釈尊の因行果徳の二法は妙法蓮華經……觀心本尊抄
- 九日 異体同心なれば万事を成じ……異体同心事

十日 日蓮は明日佐渡の国へまかるなり……………土籠御書  
十一日 夫れ、信心と申すは別には……………妙一尼御前御返事  
十二日 日蓮が慈悲広大ならば……………報恩抄  
十三日 今日蓮は去る建長五年四月二十八日……………諫曉八幡抄  
十四日 抑も今の時法華經を信ずる人あり……………上野殿御返事  
十五日 それ、針は水にしずむ……………光日房御書  
十六日 魚の子は多けれども魚となるは……………松野殿御返事  
十七日 病によりて道心はおこり候か妙……………心尼御前御返事  
十八日 孝と申すは高なり。天高けれども……………開目鈔  
十九日 国家の安危は政道の直否に在り……………北条時宗に与うる書  
二十日 教主釈尊の御宝前に母の骨を安置し……………忘持經事

- 二十一日 今日蓮は、已今當の經文を深く……妙密上人御消息
- 二十二日 今此の日本国は釈迦仏の御領なり……弥三郎殿御返事
- 二十三日 人身は受けがたし、爪の上の土……崇峻天皇御書
- 二十四日 御文に云く、此經を持ち申て後……松野殿御書
- 二十五日 儒家の孝養は今生にかぎる……開目鈔
- 二十六日 我等が父母世尊は主師親の三徳を……善無畏三蔵鈔
- 二十七日 法華經と申すは隋自意と申して……随自意御書
- 二十八日 いかにも今度信心をいたして……諸法実相鈔
- 二十九日 仏道に入て理非を勘え見るに……聖愚問答鈔
- 三十日 法華經は釈迦如来の御志を……四条金吾殿御返事
- 三十一日 日蓮幼少の時より仏法を学び……妙法尼御前御返事

一 日

○聖祖塚原三昧堂御着 文永八年十一月一日 御歳五十  
○蓮華阿闍梨日持上人 永仁三年正月

しよほうじつそうしよ

諸法実相鈔

いちえんぶだい だいいち

ごほんぞん しん

たま

あいかま

あいかま

一閻浮提第一の御本尊を信じさせ給え。

相構えて、相構

しんじんつよ そうろう さんぶつ しゅご

たも

えて、信心強く候て三仏の守護をこうむらせ給うべし。

ぎょうがく にどう はげ そうろう

ぎょうがくた

ぶつぼう

行学の二道を励み候べし。行学絶えなば仏法はあるべか

わ いた ひと

きょうけそうら

ぎょうがく しんじん

おこ

らず。我れも致し人をも教化候え。行学は信心より起る

そうろう ちから

いちもん いく

かた

たも

べく候。力あらば一文一句なりとも語らせ給うべし。

そやにゆうどうどののごへんじ  
曾谷入道殿御返事

此の経の文字は皆悉く生身妙覚の御仏なり。然れども我等は肉眼なれば文字と見るなり。例せば餓鬼は恒河を火と見る。人は水と見る。天人は甘露と見る。水は一なれど果報に随つて別々なり。此の経の文字は盲眼の者は之を見ず、肉眼の者は文字と見る。二乗は虚空と見る。菩薩は無量の法門と見る。仏は一一の文字を金色の釈尊と御覧あるべきなり。即持仏身とは是なり。

三 日

○佐渡阿闍梨日向上人 正和三年九月 六十二歳

しんこくおうごしよ

神国王御書

いちだいししやうきやう なか ほ けきやう めいきやう なか しんきやう どう  
一代聖教の中に法華経は明鏡の中の神鏡なり。銅

きやうとう ひと かたち うか

鏡等は人の形をば浮ぶれども、未だ心をば浮べず。

いま こころ うか

ほ けきやう ひと かたち うか

法華経は人の形を浮ぶるのみならず、心をも浮べ

こころ うか

たま こころ うか

給えり。心を浮ぶるのみならず、先業をも未来を

せんごう みらい

かんが たま こと

も鑒み給う事くもりなし。

四 日

○伝教大師会 弘仁十三年六月 五十六歳  
○久遠行院白象上人 昭和五十四年六月 五十九歳

じみようほつけもんどうしよう

持妙法華問答鈔

しゃ かいちぶつ

よろこ たも

しよぶつしゅつせ

ほんかい

釈迦一仏の悦び給うのみならず、諸仏出世の本懐

じゅつぼうさんぜ

しよぶつ

よろこ

たも

なれば、十方三世の諸仏も悦び給うべし。我即歡

ぎしよぶつやくねん

と

ほとけよろこ

たも

喜諸仏亦然と説かれたれば、仏悦び給うのみなら

かみ

すなわ

ずいき

たも

でんぎようだいし

ず、神も即ち随喜し給うなるべし。伝教大師これ

こう

たま

はちまんだいぼさつ

むらさき

けさ

ふせ

を講じ給いしかば、八幡大菩薩は紫の袈裟を布施

くうやしようにん

よ たま

まつお

だいまよう

し、空也上人これを読み給いしかば、松尾の大明

じん

かんふう

ふせ

たも

しちなんそくめつしちふくそくししょう

神は寒風を防がせ給う。されば七難即滅七福即生

いの

おんきようだいいち

げんぜあんのん

み

と祈らんにもこの御経第一なり。現世安穩と見え

たこくしんびつ

なん

じかいほんぎやく

なん

ごき

たればなり。他国侵逼の難・自界反逆の難の御祈

とう

こ

みようでん

す

りようひやくゆじゅんない

禱にも、此の妙典に過ぎたるはなし。令百由旬内

むしよすいげん

と

無諸衰患と説かれたればなり。



五日

観心本尊抄

かんじんほんぞんしょう

いまほんじ

しゃばせかい

さんさい

はな

しこう

い

じょう

今本時の娑婆世界は三災を離れ四劫を出でたる常

じゅう じょうど

ほとけすで

かこ

めつ

みらい

しょう

住の浄土なり。仏既に過去にも滅せず未来にも生

しょけもつ

どうたい

かこ

すなわ

こしん

さんぜんぐ

ぜず。所化以て同体なり。此れ即ち己心の三千具

そくさんしゅ

せけん

足三種の世間なり。

六日

観心本尊抄

かんじんほんぞんしょう

てんは

ちあき

ほっけ

し

もの

せほう

う

天晴れぬれば地明らかなり。

法華を識る者は世法を得べ

きか。一念三千を識らざる者には仏大慈悲を起し、五字

いちねんさんぜん

し

もの

ほとけだいじひ

おこ

ごじ

うち

こ

たま

まつだいようち

くび

の内に此の珠をつつみ、末代幼稚の頸にかけさしめたも

しだいぼさつ

こ

ひと

しゅび

たいこうしゅうこう

う。四大菩薩の此の人を守護したまわんこと、大公周公

せいおう

しょうぶ

し

けいてい

じぶ

こと

の成王を撰扶し、四皓が恵帝に侍奉せしに異ならざるも

のなり。

# 七日

○白蓮阿闍梨日興上人 正慶二年二月 八十八歳

によせつしゆぎようしよ

## 如説修行鈔

てんかばんみんしよじよういちぶつじよう

な

みようほうひと

はんじよう

とき

ばん

天下万民諸乗一仏乗と成つて

妙法独り

繁昌せん時

万

みんいちどう

なむみようほうれんげきよう

とな たてまつ

ふ

かぜえだ

民一同に南無妙法蓮華経と唱え奉らば、吹く風枝をな

あめつちくれ

よ

ぎのう

よ

こんじよう

らさず、雨壤を砕かず。代は義農の世となりて、今生

ふしよう

さいなん

はら

ちようせい

じゆつ

え

にんぼうとも

ふるう

ふ

には不祥の災難を払い長生の術を得、人法共に不老不

し ことわりあらわ

とき

おのおの ごらん

げんぜ

あんのん

しようもんうたが

死の理顕れん時を各各御覧ぜよ。現世安穩の証文疑い

あるべからざるものなり。

# 八日

○積尊降誕会

四月

○積尊成道会

十二月

○聖祖大曼陀羅御始顯

文永十年七月

御歳五十二

○伊予阿闍梨日頂上人

文保元年三月

六十六歳

かんじんほんぞんしょう

## 観心本尊抄

しやくそん

いんぎょうかどく

にほう

みようほうれんげきよう

ごじ

ぐそく

積尊の因行果徳の二法は妙法蓮華經の五字に具足

われらこ

ごじ

じゅじ

じねん

か

いんが

す。我等此の五字を受持すれば自然に彼の因果の

くどく

ゆず

あた

みようがくしやくそん

われら

功徳を譲り与えたもう。(略) 妙覚の積尊は我等

けつにく

いんが

くどく

こつずい

が血肉なり。因果の功徳は骨髓にあらずや。

九日

異体同心事

異体同心なれば万事を成じ、いたいどうしん ばんじ じょう 同体異心なれば諸事叶う事どうたいいしん しょじかの こと

なしと申す事は、もう こと 外典三千余卷に定まりて候。げてんさんぜんよかん さだ そうろう いん ちゅうおう 殷の紂王

は七十万騎なれども、しちじゅうまんき どうたいいしん 同体異心なれば戦に負けぬ。いくさ ま しゅう 周の

武王は八百人なれども、ぶおう はつびやくにん いたいどうしん 異体同心なれば勝ちぬ。か いちにん 一人の

心なれども二つの心あれば、ふた ところ 其の心違いて成ずる事なし。そ ところが じょう こと

百人千人なれども、ひやくにんせん にん ひと ところ 一つ心なれば必ず事を成ず。かなら こと じょう

十日

○聖祖佐渡御法難 文永八年十月 御歳五十

土籠御書

日蓮にちれんは明日あす佐渡さどの国くにへまかるなり。今夜こよいの寒さむきに付つけても、  
牢ろうのうちのありさま、思おもいやられて痛いたわしくこそ候そうらえ。  
あはれ殿どのは、法華經ほけきやういちぶ一部しきしんにほうともを色心しきしん二法にほうとも共ににあそおんばしたる御おん  
身みなれば、父母ふぼ六親ろくしん一切衆生いっさいしゆじやうをもたすけ給たまうべき御身おんみな  
り。法華經ほけきやうを余人よにんの読よみ候そうらうは、口くちばかり言ことばばかりは読よめ  
ども心こころは読よまず。心こころは読よめども身みに読よまず。色心しきしん二法にほうとも共に  
にあそおんばされたるこそ貴とうとく候そうらえ。

十一日

○聖祖小松原御法難 文永元年十一月 御歳四十三  
鏡忍坊日曉上人 妙隆院日玉上人 (工藤吉隆)

妙一尼御前御返事

夫れ、信心と申すは別にはこれなく候。妻の夫を惜しむが  
如く、夫の妻に命を捨つるが如く、親の子を捨てざるが如  
く、子の母に離れざるが如くに、法華經・釈迦・多宝・十方の  
諸仏菩薩・諸天善神等に信を入れ奉りて、南無妙法蓮華經  
と唱えたてまつるを信心とは申し候なり。しかのみならず  
正直捨方便不受余經一偈の經文を、女の鏡を捨てざるが如く、  
男の刀をさすが如く、少しも捨つる心なく案じ給うべく候。

# 十二日

○聖祖伊豆御法難 弘長元年五月 御歳四十  
○聖祖龍口御法難 文永八年九月 御歳五十

## 報恩抄

日蓮にちれんが慈悲じひ広大こうだいならば、南無なむ妙法蓮華經みょうほうれんげきょうは万年まんねんの外ほか未来みらいまでもながるべし。日本国にほんこくの一切衆生いっさいしゅじょうの盲目もうもくをひらける功德くどくあり。無間地獄むげんじごくの道みちをふさぎぬ。此この功德くどくは伝教でんぎょう・天台てんだいにも超こえ、龍樹りゅうじゆ・迦葉かしようにもすぐれたり。極樂百年ごくらくひゃくねんの修行しゆぎやうは穢土えいどの一日いちにちの功こうに及およばず。正像二千年しょうぞうにせんねんの弘通ぐづうは末まつ法ぽうの一時いちじに劣おとるか。是これはひとえに日蓮にちれんが智ちのかしこきにはあらず。時ときのしからしむるのみ。



十三日

○聖祖御入滅 弘安五年十月 御歳六十一

かんぎようはちまんしよう

諫曉八幡抄

いまにちれん

い

けんちようごねん しがつにじゅうはちにち

いまこう

今日蓮は去ぬる建長五年四月二十八日より、今弘

あんさんねんじゅうにがつ

いた

にじゅうはちねん

あいだ

またたじ

安三年十二月に至るまで二十八年が間、又他事な

ただみようほうれんげきよう

しちじごじ

にほんこく

いつさいしゅじよう

し。只妙法蓮華經の七字五字を日本国の一切衆生

くち

い

はげ

ばか

こ

すなわ

はは

あかご

の口に入れんと励む計りなり。此れ即ち母の赤子

くち

ちち

い

はげ

じひ

の口に乳を入れんと励む慈悲なり。

十四日

うえのどののごへんじ  
上野殿御返事

抑もそもそ今の時いま とき、法華經ほけきやうを信しんずる人ひとあり。或あるいは火ひの如ごとく信しんずる人ひともあり。或あるいは水みづの如ごとく信しんずる人ひともあり。或あるいは燃もえ立たつばかり思おもえども、遠とざかりぬれば捨すつる心こころあり。水みづの如ごとくと申もうすはいつも退たいせず信しんずるなり。此これはいかなる時ときも常つねに退たいせず問とわせ給たまえば、水みづの如ごとく信しんぜさせ給たまえるか。尊とうとし尊とうとし。

十五日

○釈尊涅槃會

二月

こうにちぼうごしよ

光日房御書

夫れ、針は水に沈む。雨は空にとどまらず。蟻子を殺せ  
る者は地獄に入り、死に屍を切れる者は悪道をまぬがれ  
ず。何に況や、人身を受けたる者を殺せる人をや。  
但し大石も海に浮ぶ、船の力なり。大火も消ゆる事、  
水の用にあらずや。小罪なれども、懺悔せざれば悪道を  
まぬがれず。大逆なれども、懺悔すれば罪消えぬ。

そ

はり

みず

しず

あめ

そら

あり

ころ

もの

じごく

い

し

かばね

き

もの

あくどう

いか

いわん

にんしん

う

もの

ころ

ひと

ただ

だいせき

うみ

うか

ふね

ちから

たいか

き

こと

みず

はたらき

しょうざい

さんげ

あくどう

だいきやく

さんげ

つみき

十六日

○聖祖御降誕 貞応元年二月

まつのどののごへんじ  
松野殿御返事

魚の子は多けれども魚となるは少なく、菴羅樹の花は  
多く咲けども菓になるは少なし。人も又此の如し。菩  
提心を発す人は多けれども退せずして実の道に入る者  
は少なし。すべて凡夫の菩提心は多く悪縁にたぼらか  
され、事にふれて移りやすき物なり。鎧を著たる兵者  
は多けれども、戦に恐れをなさざるは少なきが如し。

# 十七日

○聖祖身延御入山 文永十一年五月 御歳五十三

○久遠成院日親上人 長享二年九月 八十二歳

○本妙日臨律師 文政六年九月 三十一歳

## 妙心尼御前御返事

やまい

病あれば死ぬべししといふ事不定なり。又この病は仏の御

ことふじよう

また

やまい ほとけ

おん

はからいか。そのゆえは浄名経・涅槃経には病ある人仏

じようみやうきよう

ねはんきよう

やまい

ひとほとけ

になるべきよし説かれて候。病によりて道心は起り候

と

そうろう

やまい

どうしん

おこ

そうろう

か。(略)入道殿は今生にはいたく法華経を御信用あり

にゅうどうどの こんじよう

ほけきよう

ごしんよう

とは見え候わねども、過去の宿習のゆえかのもよおしに

み

そうら

かこ

しゆくしゆう

ながやまい

ひびよよ

どうしん

よりて、この長病にしずみ、日々夜々に道心ひまなし。

こんじょう

たま

しょうざい

き

そうらい

今生につくりおかせ給いし小罪はすでに消え候ぬらん。

ほうぼう

だいたく

またほけきょう

き

き

たも

謗法の大悪は又法華経に帰しぬるゆえに消えさせ給うべ

りょうぜん

まい

ひ

じゅつぼう

し。ただいまに靈山に参らせ給いなば、日いでて十方を

み

ごと

し

よろこ

見るが如くうれしく、とく死にぬるものかなと、うち喜

たま

ちゅうう

みち

こと

び給い候わんずらん。中有の道にいかなる事もいできた

そうら

にちれん

でし

な

たま

り候わば、日蓮が弟子なりと名のらせ給え。

# 十八日

かにもくしょう

## 開目鈔

こう もう

こう

てんたか

こう

たか

孝と申すは高なり。天高けれども孝よりも高からず。

またこう

こう

ちあつ

こう

あつ

又孝とは厚なり。地厚けれども孝よりは厚からず。

せいけん

にるい

こう

いえ

いか

いわん

ぶつぼう

聖賢の二類は孝の家よりいでたり。何に況や仏法

がく

ひと

ちおんほうおん

ぶつでし

かなら

を学せん人、知恩報恩なかるべしや。仏弟子は必

しおん

し

ちおんほうおん

ず四恩を知つて知恩報恩をほうずべし。

# 十九日

## 北条時宗に与うる書

ほうじょうときむね

あた

しょ

こつか 国家の安危は政道の直否に在り。仏法の邪正は経文の明

きよう

鏡に依る。夫れ此の国は神国なり。神は非礼をうけたま

てんじんしちだい

わず。天神七代・地神五代の神々、その外諸天善神等は

いちじようおうご

しんめい

一乗擁護の神明なり。しかも法華経を以て食と為し、

しようじき

正直を以て力と為す。法華経に云く、諸仏救世者は

だいじんづう

大神通に住して、衆生を悦ばしめんが為の故に無量の神

りき

力を現じたもうと。

げん



二十日

忘持經事

きようしゆしやくそん　ごほうぜん　はは　こつ　あんち　ごたい　ち　な  
教主釈尊の御宝前に母の骨を安置し、五体を地に投  
げ、合掌して両眼を開き、尊容を拜し、歡喜身に余  
り、心の苦しみ忽ち息む。我が頭は父母の頭、我が  
足は父母の足、我が十指は父母の十指、我が口は父  
母の口なり。譬ば種子と菓子と、身と影との如し。

二十一日

○大國阿闍梨日朗上人 元応二年正月 七十六歳

妙密上人御消息

みようみつしょうにんごしょうそく

いまにちれん

今日蓮は(略)已今当の経文を深くまもり、一経の肝心

いこんとう きょうもん ふか

いつきょう かんじん

だいもく

われ とな ひと

すす あさ なか よもぎ すみ

たる題目を我も唱え人にも勧む。麻の中の蓬、墨うてる

き じたい しょうじき

じねん す

ごと

木の、自体は正直ならざれども自然に直ぐなるが如し。

きょう

とな

こころ

まさ し

ほとけ

経のままに唱うればまがれる心なし。当に知るべし。仏

みこころ

われら

み

い

たま

とな

の御心の我等が身に入らせ給わずば唱えがたきか。

二十二日

やさぶろうどのごへんじ  
弥三郎殿御返事

いまこ にほんこく しゃかぶつ ごりよう てんしやうだいじん はちまん  
今此の日本国は釈迦仏の御領なり。天照太神・八幡  
だいぼさつ じんむてんのうとう いっさい かみ こくしゆなら ばんみん  
大菩薩・神武天皇等の一切の神・国主並びに万民までも  
しゃかぶつ ごしりよう うち うえ こ ほとけ われらしゆじよう さん  
釈迦仏の御所領の内なる上、此の仏は我等衆生に三の  
ゆえましま だいおん ほとけ ひとつ こくしゆ に ししよう  
故御坐す大恩の仏なり。一には国主なり、二には師匠  
さん しんぶ  
なり、三には親父なり。此の三徳を備え給う事は十方  
ほとけ なか ただ しゃかぶつ  
の仏の中に唯釈迦仏ばかりなり。

二十二日

崇峻天皇御書

すしゅんてんのうごしょ

人身にんしんは受うけがたし、爪つめの上うえの土つち。人身にんしんは持たもちがたし、艸くさの上うえの露つゆ。百二十ひやくにじゅうまで持たもちて名なを腐くたして死しせんよりは、生いきて一日いちにちなりとも名なをあげん事ことこそ大切たいせつなれ。中務なかつかさぶろう三郎ざぶろう左衛門ざえもんの尉じょうは主しゅの御おんためにも、仏法ぶつぽうの御おんためにも、世間せけんの心根こころねも吉よかりけり吉よかりけりと、鎌倉かまくらの人々ひとびとの口くちにうたわれ給たまえ。穴賢あなかしこ穴賢あなかしこの財たからよりも身みの財たからすぐれたり。身みの財たからより心こころの財たから第一だいいちなり。此この御文おんふみを御覽ごらんあらんよりは心こころの財たからをつませ給たまうべし。

# 二十四日

○天台大師会 開皇十七年十一月 六〇歳

## まつのどのごしよ 松野殿御書

おんふみ いわ 御文に云く、此の経きやうを持ち申もうして後のち、退転たいてんなく十如是じゆうによぜ。  
じが げ よ たてまつ 自我偈じがげを読み奉り、題目だいもくを唱となえ申もうし候そうろうなり。但ただし聖人しようにんの  
とな たも だいもく 唱となえさせ給たまう題目だいもくの功德くどくと、我等われらが唱となえ申もうす題目だいもくの功德くどくと、  
いかほど たしやうそうろう 何程いかほどの多少たしやう候そうろうべきやと云々うんぬん。更さらに勝劣しようれつあるべからず候そうろう。  
そ ゆえ ぐしや も 其その故ゆえは愚者ぐしやの持もちたる金こがねも智者ちしやの持もちたる金こがねも、愚者ぐしや  
とも ひ ちしや とも の然ともせる火ひも智者ちしやの然ともせる火ひも其その差別さべつなきなり。但ただし  
こ きやう こころ そむ 此この経きやうの心こころに背そむいて唱となえば其その差別さべつ有あるべきなり。

# 二十五日

## 開目鈔

かいもくしょう

儒家の孝養は今生にかぎる。未来の父母を扶けざれば、外家の  
聖賢は有名無実なり。外道は過未を知れども父母を扶くる道  
なし。仏道こそ父母の後世を扶くれれば聖賢の名はあるべけれ  
然れども法華経已前等の大小乗の経宗は自身の得道なおかな  
いがたし。何に況や父母をや。ただ文のみありて義なし。今  
法華経の時こそ、女人成仏の時悲母の成仏も顕われ、達多の悪  
人成仏の時慈父の成仏も顕わるれ。此の経は内典の孝経なり。

# 二十六日

○弁阿闍梨日昭上人 元亨三年二月 百三歳

## 善無畏三蔵鈔

ぜんむい さんぞうしよう

われら ふ ぼ せ せん しゅ し しん さん とく そな 我等が父母世尊は主師親の三徳を備えて、いっさい ほとけ ひんずい 一切の仏に擯出せ

られたる我等を、われら ゆいが いちにんのうい くご 唯我一人能為救護とはげませ給う。たも おんたい その恩大

海よりも深し、かい ふか おんたいち その恩大地よりも厚し、あつ おんこくう その恩虚空よりも広し。ひろ

二つの眼をぬいて仏前に空の星の数備うとも、ふた まなこ ぶつぜん そら ほし かずそな 身の皮を剥い

で百千万天井にはるとも、ひやくせんまんてんじよう なみだ あか みず 涙を闕伽の水として千万億劫仏前

に花を備うとも、はな そな み につけつ むりようこうぶつぜん やま ごと つ 身の肉血を無量劫仏前に山の如く積み、だい 大

海の如く湛うとも、かい ごと たた こ ほとけ いちぶん ごおん ほう つく 此の仏の一分の御恩を報じ尽しがたし。

# 二十七日

○聖祖松葉谷御法難 文応元年八月 御歳三

## ずいじいごしよ 随自意御書

ほけきよう もう ずいじい ほうけ みにころと たも ほとけ  
法華経と申すは隋自意と申して仏の御心を説かせ給う。仏  
の御心はよき心なるゆえに、たとい知らざる人も此の経を  
よ みにころ ころ ひと こ きよう  
読みたてまつれば利益はかりなし。麻の中のよもぎ・筒の  
なか くちなわ ひと むつ あさ なか つつ  
中の蛇・よき人に睦ぶもの、なにとなければ心も振舞も  
ことば なお ほけきよう ごと  
言も直しくなるなり。法華経もかくの如し。なにとなければ  
きよう しん ひと ほとけ もの  
どもこの経を信じぬる人をば仏のよき物とおぼすなり。



二十八日

○聖祖本化宗旨御建立 建長五年四月 御歳三十二

しよほうじつそうしよ

諸法実相鈔

いかにも今度信心をいたして法華經の行者にて通り、日  
蓮がれん いちもん一門となり通し給うべし。日蓮と同意ならば地涌の  
菩薩たらんか。地涌の菩薩に定まりなば、釈尊久遠の弟子  
たる事ことあに疑わんや。經に云く、我れ久遠よりこのかた  
これらの衆を教化すとはこれなり。末法にして妙法蓮華  
經のきよう ごじ ひろ五字を弘めん者は男女は嫌うべからず、皆地涌の菩

さつ しゅつげん

とな がた だいもく

にちれんいちにん

薩の出現にあらずんば唱之難き題目なり。日蓮一人はじ

なむみようほうれんげきよう とな

ににんさんになひやくにん しだい

めは南無妙法蓮華経と唱えしが、二人三人百人と次第に

とな つた

みらい また

ぢゆ

唱之伝うるなり。未来も又しかるべし。これあに地涌の

ぎ

あまつ

こうせん るふ とき

にほんいちどう

なむみよう

義にあらずや。剩さえ広宣流布の時は日本一同に南無妙

ほうれんげきよう

とな

こと

だいち まと

法蓮華経と唱えん事は大地を的とするなるべし。ともか

ほけきよう

な

た

み

たも

くも法華経に名を立て身をまかせ給うべし。

# 二十九日

しょうぐもんどうしょう

## 聖愚問答鈔

ぶつどう いったりひ かんが み ぶつぼう じゃしょう かなら とくつう じざい  
仏道に入て理非を勘え見るに、仏法の邪正は必ず得通自在には  
よらず。これを以て仏は依法不依人と定め給えり。(略)彼の阿伽  
だせん ごうが かたみみ じゅうにねん ぎとせん いちにち うち だいかい  
陀仙は恒河を片耳にただえて十二年、耆兔仙は一日の中に大海  
をすいほす。張階は霧を吐き、樂巴は雲を吐く。然れども未だ仏法  
ぜひ し いんが どうり わきま いちよう ほううん ぼつし こう  
の是非を知らず、因果の道理をも弁えず。異朝の法雲法師は講  
きようこんしゅう みぎり しゅゆ てんげ ふ みようらくだいし かのうかく  
経勤修の砌に須臾に天華を降らせしかども、妙樂大師は感応斯  
ごと り かな ぶつぼう し は たも  
の若きもなお理に称わずとて、いまだ仏法をば知らずと破し給う。

三十日

四條金吾殿御返事

しじょうきんごどのごへんじ

法華經は釈迦如来の御志を書き顯わして、此の音声を文字と成し給う。仏の御心はこの文字に備われり。たとえば種子と苗と草と稻とはかわれども心はたがわず。釈迦と法華經の文字とはかわれども、心は一つなり。然れば法華經の文字を拜見せさせ給うは、生身の釈迦如来にあい進らせたりとおぼしめすべし。

三十一日

みようほうあまごぜんごへんじ

妙法尼御前御返事

そ

にちれんようしやうとき

ぶつぼう

まな

そうら

夫れおもんみれば日蓮幼少の時より仏法を学び候いし

ねんがん

ひと

じゆみやうむじやう

い

いき

い

が念願すらく、人の寿命は無常なり。出づる気は入る

いき

ま

こと

かぜ

まえ

つゆ

たとえ

気を待つ事なし。風の前の露、なお譬にあらず。かしこ

お

わか

さだ

な

なら

きも、はかなきも、老いたるも、若きも定め無き習いな

ま

りんじゆう

こと

なる

のち

たじ

なら

り。されば先ず臨終の事を習うて後に他事を習うべし。

信行の手引

# 目次

ごんぎょう

## 勤行

.....  
仏祖三宝諸天善神に感謝し、一日の家族縁者の無  
事を祈り、又先祖に回向すること。(毎日定刻)  
.....  
2

きがん

## 祈願

.....  
自分や家族のお願いごと。  
.....  
(随時)  
.....  
8

くよう

## 供養

.....  
先祖や有縁無縁の霊の成仏を祈ること。  
.....  
(随時)  
.....  
12

さんげ

## 懺悔

.....  
深く自己をみつめ、過去世から今生今日に至るま  
での罪をおわびすること。  
.....  
(随時)  
.....  
17

勤ごん  
行ぎよう

一、お題目三唱

かんじよう

一、勸請（仏・菩薩・神々などの名前を呼びおでましを請う）導師

こ

つつし うやま

かんじよう たてまつ

ほけきようによらいじゆりようほんしよけん

ほんぞん なむ くおん

謹み敬つて勸請し奉る法華経如来寿量品所顕の本尊南無久遠

じつじようだいおんきようしゆ しやかむにぶつ

べつ

なむ しようみやうほけきよう たほうによらい

実成大恩教主釈迦牟尼仏、別しては南無証明法華経多宝如来、

なむ じつ ほうふんじん さんぜ

しよぶつ

なむじようぎよう

むへんぎよう じようぎよう あんりゆうぎようとう

南無十方分身三世の諸仏、南無上行・無边行・浄行・安立行等

ほんじやくりようもん

しよだい ぼさつ

こと

まつほううえん

だいどうし

なむ ほんげじようぎよう

本迹両門の諸大菩薩、殊には末法有縁の大導師南無本化上行



こうそにちれんだいぼさつ ほかきようさんごくによほうぐづう せんしせんしやう いちじやうおうご

高祖日蓮大菩薩、法華經三国如法弘通の先師先匠、一乘擁護

しよてんぜんじん きしも そんじんじゆうらせつによとうこと けしゅご ぜんじん

の諸天善神、鬼子母尊神・十羅刹女等殊には〇〇家守護の善神

そふ だいまんだらじゆうじゆういつさい さんぼう らいりんようげんちけんしやうかん だいじ

総じては大漫荼羅常住一切の三宝、来臨影現智見照鑑、大慈

だいひごほうみのうじゆ

大悲御法味納受。

かいきやうげ

一、開經偈

どつきやう

一、読経 適宜

(例) イ. 方便品、自我偈

ロ. 方便品、自我偈、神力偈

ハ. 序品、方便品、自我偈、神力偈、観音偈

二、序品、方便品、寿量品、神力品、属累品、  
観音偈、呪陀羅、普賢品

ごみょうはん

一、御妙判（日蓮聖人のお言葉）その日の妙行聖訓

日蓮大聖人○○○○○にいわく……

しょうだい たんざがつしょう ししん

一、唱題（端座合掌して至心にくり返しお題目を唱える）

えこう どつきょうしょうだい くどく まわ

一、回向（読経唱題の功德を回りめぐらす）導師

つつし うやま じょうらいかんじょう さんぼうしよてんぜんじん じおん ほうしゅう おんざん

謹み敬つて上来勧請し奉る三宝諸天善神の慈恩に報酬し恩山

いちじんとつかい いってき しゃ たてまつ にちにち ごしゅごおんみちび だいじ だい

の一塵徳海の一滴に謝し奉る。日々の御守護御導き、大慈大

ひ ごほうおんしゃとく

悲御報恩謝徳。

仰あおぎ願ねがわくは 一いつ天てん四し海かい皆みな帰き妙めう法ぼう、末まつ法ぼう万まん年ねん広こう宣せん流る布ふ、立りつ正しょう安あん  
こく せかい へいわ てんちようちきゆうこくどあんのん ごこくじようじゅばんみんけらく  
国 世界平和、天長地久国土安穩、五穀成就万民快樂。

伏ふして祈いのるらくは、我われ等ら無む始し以い来らいの罪ざい障しょうを懺ざん悔げし、よよく三さん宝ぼう

に帰き依えし、仏ぶつ子しの自じ覚かくをも持つち、常じょうに精しん進じんし、悪あくを止やめ、善ぜんを

作なし、広こう宣せん流る布ふに志こころざし、現げん世ぜ安あん穩のん、後ご生しょう善ぜん処しよとなしたまえ。

更さらに願ねがわくは ○○家 各おの々の身しん体たい健けん全ぜんにして、夫ふう婦ふ、親おや子こ、兄きょう弟だい、

姉し妹まい、相あい和わし、家か庭てい円えん満まんにして、上かみは佛ぶつ天てんの鴻こう恩おんに忘わすれ、下しもは

社しゃ会かいに貢こう献けんせしめたまえ。火か盜とう防ぼう止し 諸しよ縁えん吉きつ祥しょう、家か内ない安あん全ぜん

かうんりゆうしよう しそんちようきゆうりようぼうくじゆう

家運隆昌、子孫長久令法久住。

さら よけい くどく も

更に餘慶の功徳を以つては○○家先祖代々六親九族之精霊、

こと れいい ほんじつめいにちこんばんたいや しょうりよう てんめいかいごりく とくらく

殊には○○靈位、本日命日今晚逮夜の精霊、転迷開悟離苦得樂、

しゅつりしょうじしょうだいぼだい

出離生死證大菩提。

しぐ せいがん

一、四弘誓願

しゅじようむへん せいがんど

衆生無辺誓願度

ぼんのうむしゅ せいがんだん

煩惱無数誓願断

ほうもん むじん せいがんち

法門無尽誓願知

ぶつどうむじようせいがんじよう

仏道無上誓願成

一、きえ 帰依

今身こんじんより佛身ぶつしんに至いたるまで能よく持たもち奉たてまつる。

(お題目三唱)

# 祈願

## 一、お題目三唱

かんじょう

## 一、勸請(導師)

てんちしょうじょう

ないげしやうじょう

にやくじほけきやうごしんじんしやうじょう

ふせんせけんぼう

天地清浄

内外清浄

若持法華經其身甚清浄

不染世間法

によれんげさいすい

とくもんしきやうろつこんしやうじょう

じんづうりきこぞうやくじゆみやう

如蓮華在水

得聞此經六根清浄

神通力故增益壽命

なむぶつ

なむほう

なむそう

なむほんししやかむにぶつ

なむいちじやう

南無仏

南無法

南無僧

南無本師釈迦牟尼佛

南無一乘

みやうほうれんげきやう

なむどうしにちれんだいぼさつ

ごせごほう

てんじんちぎ

妙法蓮華經

南無導師日蓮大菩薩

護世護法の天神地祇

こと

ほつけきやうじやおうご

なむきぎやうきしもだいぜんじんじゆうらせつによとう

殊には

法華行者擁護

南無鬼形鬼子母大善神十羅刹女等

けい しゅご しょうてんぜんじん そう だいまんだらじょうじゅういつさい さんぼう

〇〇家守護の諸天神 総じては大漫荼羅常住一切の三宝

らいとうどうじょうちけんしゅうかん だいじ だいひ いえつ しゅじょうこ げんむりようじんりき

来到道場智見照鑑 大慈大悲 為悦衆生故 現無量神力。

いつしんしゅうじょう きねん たてまつ

一心清淨に祈念し奉る。(具体的に祈願事項をのべる)

かいきようげ

一、開經偈

一、読経 適宜

(例) イ. 方便品 自我偈

ロ. 方便品、自我偈、神力偈

ハ. 序品、方便品、自我偈、神力偈、観音偈、咒陀羅

ニ. 序品、方便品、寿量品、神力偈、観音偈、咒陀羅

ホ. 序品、方便品、寿量品、神力品、属累品、観音偈、

咒陀羅

一、御妙判 如説修行抄 (妙行聖訓 七日)

一、唱題 (端座合掌して至心に繰り返しお題目を唱える)

一、祈念 (導師)

つつし うやま じょうらいかんじょう さんぼうしよてんぜんじん しゅじょう よろこば

謹み敬つて上来勸請し奉る三宝諸天善神、衆生を悦しめんが

ため ゆえ むりよう じんりき げん いっしんしやうじやう きねん たてまつ

為の故に無量の神力を現じたまえ。一心清浄に祈念し奉る、

たいさい さい なんしやう によしやう むし いらいほうぼうさんげざいしやう

太歳○○歳の (男性・女性) ○○○○ 無始以来謗法懺悔罪障

しやうめつろつこんしやうじやう しんりきざうしん しんがんまんぞく しゅご

消滅六根清浄 信力増進 心願満足と守護せしめたまえ。殊

ましやう けばく だん

には『何々の件』(具体的に申し上げる。)魔障の緊縛を断じて



いつさいえんまん

きつしょうじょうじゆ

りようひやくゆじゆんないむしよすいげん

一切円満 吉祥成就なさしめたまえ。令百由旬内無諸衰患

じゆじほつけみようしゃふくふかりよう

によらいひみつじんづうしりき

だいじ だいひ かのう

受持法華名者福不可量 如来秘密神通之力 大慈大悲感応

どうきようあいみん ごしゆご

道交哀愍御守護。

一、 帰依

きえ

こんじん

ぶつしん

いた

よ

たも

たてまつ

今身より佛身に至るまで能く持ち奉る。

(お題目三唱)

# 供養

## 一、お題目三唱

かんじょう

## 一、勸請（導師）

つつしうやま

かんじょうたてまつ

ほけきょうによらいじゆりょうほんしよけん

ほんぞんなむくおん

謹み敬つて勸請し奉る法華経如来寿命品所顕の本尊南無久遠

じつじょうだいおんきょうしゅしゃかむにぶつ

べつ

なむしようみやうほけきょうたほうによらい

実成大恩教主釈迦牟尼仏、別しては南無証明法華経多宝如来、

なむじつぼうふんじんさんぜ

しよぶつ

なむじょうぎょう

むへんぎょう

じょうぎょう

あんりゆうぎょうどう

南無十方分身三世の諸仏、南無上行・無辺行・浄行・安立行等

ほんじやくりょうもん

しよだいぼさつ

こと

まつぼううえん

だいどうし

なむほんげじょうぎょう

本迹両門の諸大菩薩、殊には末法有縁の大導師南無本化上行

こうそにちれんだいぼさつ

ほけきょうさんごくによほうぐづう

せんしせんしよ

いちじょうおうご

高祖日蓮大菩薩、法華経三国如法弘通の先師先匠、一乘擁護の

しよてんぜんじん きしも そんじん じゅうらせつによとう こと け しゅご ぜんじん

諸天善神、鬼子母尊神・十羅刹女等 殊には○○家守護の善神

そつ だいまんだらじょうじゅういつさい さんぼう らいりんようげんちけんしょうかん だいじだい

総じては大漫荼羅常住一切の三宝、来臨影現智見照鑑、大慈大

ひ みて た れいや りょうぜんじょうど せつしゅいんにゅう

悲の御手を垂れ、靈也を靈山浄土へ攝取引入なさしめたまえ。

け せんぞだいだいの れいいい ぎょうねん

これより○○家先祖代々之靈位（又は○年○月○日命日行年

れいいい ぞくみょう の れいいい くよう たてまつ ねが

○歳○○院○○靈位 俗名○○之靈位）に供養し奉る。願わく

れいや われら とも ほけきょう ぞくじゅ だいもく とな なむ こうそ

は靈也我等と共に法華經を讀誦し、お題目を唱え、南無高祖

にちれんだいしようにん みちび いちじょうおうご しよてんぜんじん ごしゅご

日蓮大聖人に導かれ、一乘擁護の諸天善神の御守護によつて

なむ くおん じつじょうだいおんきょうしゅしゃかむにぶつ りょうぜんじょうど いた むし ざい

南無久遠実成大恩教主釈迦牟尼佛の靈山浄土へ至り無始の罪

しょう しょうめつ 障を消滅し、  
やす 安らかに宝蓮華の台に坐して等正覚を成じたま

わんことを。

一、開経偈  
かいきょうげ

一、読経  
どつきょう

(例) イ. 方便品 自我偈 (真読或いは訓読)

ロ. 方便品、欲令衆、提婆品、自我偈

ハ. 方便品、欲令衆、自我偈、観音偈

適宜

一、御妙判  
ごみょうはん

観心本尊抄(妙行聖訓五日) 又は  
父母への回向の場合(開目抄 妙行聖訓二十五日)

一、唱題

一、回向えこう（導師）

つつし ほけきょう どくじゅ

だいもく とな

け せんぞ だいだいのれい

謹んで法華經を讀誦し、お題目を唱え、○○家先祖代々之靈

い

えこう たてまつ

ねが

れいや どつきようしやうだい

位い（又は○○之靈位）に回向し奉る。願わくは靈也 読經唱題

くどく

なむ こうそにちれん だいしようにん みちび

いちじようおうご しよ

の功德により、南無高祖日蓮大聖人に導かれ、一乘擁護の諸

てんぜんじん

ご しゅご

なむ くおん じつじやうだいおんきやうしゅしやかむにぶつ

天善神の御守護によつて南無久遠実成大恩教主釈迦牟尼佛の

りやうぜんじやうど

いた むし ざいしやう しやうめつ

やす

ほうれんげ うてな

靈山浄土へ至り無始の罪障を消滅し、安らかに宝蓮華の台に

ざ

とうしやうがく じやう

坐して等正覺を成じたまわんことを。

一、  
四弘誓願 しぐせいがん

衆生無辺誓願度 しゅじょうむへんせいがんど  
煩惱無数誓願断 ぼんのうむしゅせいがんだん  
法門無尽誓願知 ほうもんむじんせいがんち

仏道無上誓願成 ぶつどうむじょうせいがんじょう

一、  
帰依 きえ

今身より佛身に至るまで能く持ち奉る。  
こんじん ぶつしん いた よ たも たてまつ

(お題目三唱)

懺 悔 さん げ

一、お題目三唱

かんじょう

一、勸請（導師）

つつし うやま

かんじょう たてまつ

ほけきょう によらいじゅりょうほんしよけん

ほんぞん なむ くおん

謹み敬つて勸請し奉る法華経如来寿量品所顕の本尊南無久遠  
じつじょうだいおんきょうしゅしやくかむにぶつ べつ なむしよみょうほけきょう たほうによらい

実成大恩教主釈迦牟尼仏、別しては南無証明法華経多宝如来、  
なむ じつぼうふんじん さんぜ しょぶつ なむじょうぎょう むへんぎょう じょうぎょう あんりゅうぎょうどう

南無十方分身三世の諸仏、南無上行・無边行・浄行・安立行等  
ほんじやくりょうもん しょだいぼさつ こと まっぼううえん だいどうし なむほんげじょうぎょう

本迹両門の諸大菩薩、殊には末法有縁の大導師南無本化上行

こうそにちれんだいぼさつ ほかきようさんごくによほうぐづう せんしせんしやう いちじやうおうご  
 高祖日蓮大菩薩、法華経三国如法弘通の先師先匠、一乗擁護  
 しょうぜんぜんじん きしも そんじん じゅうらせつによとうこと  
 の諸天善神、鬼子母尊神・十羅刹女等殊には〇〇家・それが  
 しゅご ぜんじん ぐしやうじん どうみやうてんどうしやうてんどう そう だいまんだら  
 し守護の善神、俱生神(同名天同生天)等、総じては大漫荼羅  
 じやうじゅういつさい さんぼう らいりんやうげんちけんしやうかん だいじ だいひ みて た  
 常住一切の三宝、来臨影現智見照鑑、大慈大悲の御手を垂れ  
 さんげ のうじゆ  
 懺悔納受なさしめたまえ。

かいきやうげ

一、開経偈

どつきやう

一、読経 方便品 自我偈



一、懺悔文 さんげもん

至心ししんに懺悔さんげす。我無始われむしよりこのかた無明むみょうの闇やみに閉とざされて、

眼耳鼻舌身意げんにびぜつしんいの六根ろっこん暗くらく、貧・瞋・痴とんじんちの三毒さんどくの煩惱ぼんのうさかんに

して、はてしなき欲望よくぼうのとりことなり食物しょくもつを貪むさぼり、或いは物もの

や名利みやうりに執着しゅうぢやくし、或あるはいかり、ねたみ、そねみの心強こころつよく、つ

まらぬ事ことで他人ひとと争あらそい、又過またすぎさりしこととらに囚とらわれていつま

でも愚痴ぐちを言いい、或あるいは未いまだ来きたらぬことを憂うれいて取り越とこし

苦勞くろうをし、又他人またひとと比くらべ自らみずかが勝すぐれていると憍慢きょうまんの心こころをいだ

き、或いは逆に自らをいたずらに卑下し、或いは、み佛の教ある ぎやく みずか ひげ ある ほとけ おし  
 えや他人の善意を疑うなど、かくの如き煩惱、無量無辺なり。ひと ぜんい うたが ごと ぼんのう むりようむへん  
 たとえ、み佛の教えにふれ菩提心を起して、お経を読み、おほとけ おし ぼだいしん おこ きよう よ  
 題目を唱へ、布施すると雖も、心に慢心をいだきて、まことだいもく とな ふせ いえど こころ まんしん  
 の喜捨を知らず、奉仕に精進すといえども己の名のみを誇りきしゃ し ほうし しょうじん おのれ な ほこ  
 て、見返りを求めるなどその功德を無にし、清浄心をけがしみかえ もと くどく む しょうじょうしん  
 て業海に流転す。然るに今、久遠の本仏お釈迦さまの御前にごうかい るてん しか いま くおん ほんぶつ しゃか おんまえ  
 五体を投げ御足を頂き、至心に合掌帰命し奉りお題目を唱え、ごたい な みあし いただ ししん がっしょうきみょう たてまつ だいもく とな

ふか ざんき つよ ふい ころ さんげ たてまつ あお ねがわ  
深く慚愧し、強く怖畏をいだき、心から懺悔し奉る。仰ぎ願く

なむくおんじつじょうだいおんきようしゅしゃかむにぶつ なむほんげじょうぎようこうそにちれん  
は南無久遠実成大恩教主釈迦牟尼仏、南無本化上行高祖日蓮

だいぼさつ さんげ のうじゅ じねんりき た しんしん じゅうざい めつ  
大菩薩、懺悔を納受して慈念力を垂れ、身心の重罪を滅し、

み ころろ しょうじょう げんぜ およ らいせ しょうがん じょうまん  
身も心も清浄にして、現世及び来世にわたる所願を成満せし

ししん さんげ いっしん こんとう たてまつ  
めたまえ。至心に懺悔し、一心に懺悔し奉る。

一、唱題（心からおわびする気持ちでくり返し唱える）

一、宝塔偈  
ほうとうげ

一、回向文 えこうもん

つつし じょうらいかんじょう たてまつ ぶつそさんぼうしよてんぜんじん まえ お ほけ

謹んで上来勸請し奉る仏祖三宝諸天善神のみ前に於いて法華

経を讀誦し、一心にお題目を唱え、懺悔文を諷誦しもつて懺 きょう どくじゆ いっしん だいもく とな さんげもん ふじゆ さん

悔し奉る。仰ぎ願くは南無久遠実成大恩教主釈迦牟尼仏、

南無本化上行高祖日蓮大菩薩、懺悔を納受して慈念力を垂れ、

身心の重罪を滅し、身も心も清浄にして、現世及び来世にわ

たる所願を成満せしめたまわんことを。これから御仏のお

さとしを深く味わい、その教えを守り心豊かに智慧を磨き、

なむほんげじょうぎょうこうそにちれんだいぼさつ さんげ のうじゆ じねんりき た

しんしん じゆうざい めつ み こころ しやうじやう げんぜおよ らいせ

しやがん じやうまん ふか あじ おし まも こころゆた ちえ みが

ふか あじ おし まも こころゆた ちえ みが

ふか あじ おし まも こころゆた ちえ みが

ふか あじ おし まも こころゆた ちえ みが

ふか あじ おし まも こころゆた ちえ みが

ふか あじ おし まも こころゆた ちえ みが

ふか あじ おし まも こころゆた ちえ みが

行おこいをすまし心しんでん田けがの汚のぞれを除かん。

願ねがわくば未いまだ発ほつしん心ものせざる者ものをして菩ぼだいしん提おこ心を発おこさしめ、慈じにん仁な

き者ものには慈じしん心おこを起おこさしめ、殺せつりく戮このを好ものむ者ものには大だいひ悲こころの心おこを起おこさ

しめ、嫉しつと妬しょうを生ものずる者ものには随ずいき喜こころの心おこを起おこさしめ、愛あいぢやく著ものある者

には能のうしや捨こころの心おこを起おこさしめ、諸もろもろの慳けんどん貪ものの者ものには布ふ施せの心こころを起おこさ

しめ、憍きやうまん慢おほ多ものき者ものには持じかい戒こころの心おこを起おこさしめ、瞋しんにさか恚もの盛ものんなる者

には忍んにく辱こころの心おこを起おこさしめ、懈けだい怠しょうを生ものずる者ものには精しょうじん進こころの心おこを起おこ

さしめ、諸もろもろの散さんらん乱ものの者ものには禅ぜんじよう定こころの心おこを起おこさしめ、愚ぐち痴おほ多ものき者

には智慧の心を起さしめ、未だ彼を度すること能わざる者に  
ちえ ところ おこ いま かれ ど  
 には彼を度する心を起さしめ、十悪を行ずる者には十善の心を  
かれ ど ところ おこ じゅうあく ぎょう もの じゅうぜん ところ  
 起さしめ、有為を樂う者には無為の心を志さしめ、退心ある  
おこ う い ねが もの む い ところ おこ  
 者には不退の心を作さしめ、有漏を為す者には無漏の心を起  
もの ふたい ところ な うろ な もの むろ ところ おこ  
 さしめ、煩惱多き者には除滅の心を起さしめ、更に一には諸  
ぼんのう おお もの じよめつ ところ おこ  
 仏に護念せらるることを為、二には諸の徳本を植え、三には  
ぶつ ごねん え に もろもろ とくほん う さん  
 正定聚に入り、四には一切衆生を救うの心を發さしめたまえ。  
しょうじょうじゆ はい し いっさいいしゆじょう すく ところ おこ

一、  
四弘誓願 しぐせいがん

衆生無辺誓願度 しゅじょうむへんせいがんど

煩惱無数誓願断 ぼんのうむしゅせいがんだん

法門無尽誓願知 ほうもんむじんせいがんち

仏道無上誓願成 ぶつどうむじょうせいがんじょう

一、  
皈依 きえ

今身より佛身に至るまで能く持ち奉る。  
こんじん ぶつしん いた よ たも たてまつ

(お題目三唱)

							戒 名
							俗 名
							命 日
							行 年



---

氏 名

---

〒  
住 所

---



Fax

---

---

菩提寺

---

住職名

---

〒  
住 所

---



Fax

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

不許  
複製

改訂システム聖典

平成二十五年二月吉日再再版

編集発行者 町 行象

発行印刷所 法輪舎

T 271 0092

千葉県松戸市松戸一五一六〓三

TEL・FAX

〇四七（三六七）八三七四